

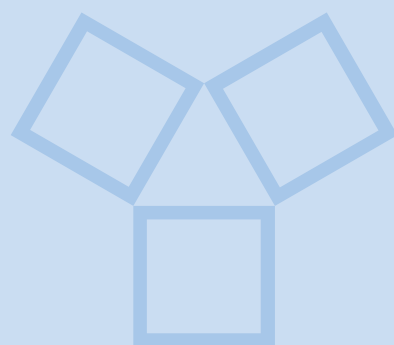
2021

令和3年度

横浜美術館年報

Yokohama Museum of Art Annual Report

April 2021 – March 2022



YOKOHAMA MUSEUM OF ART

2021

令和3年度

横浜美術館年報

Yokohama Museum of Art Annual Report
April 2021 – March 2022

序

横浜美術館は現在、平成元（1989）年の開館以来初めてとなる大規模改修工事を行っています。

令和2（2020）年度末までに当館建物における事業を終え、本令和3（2021）年度には1万3千点を超える所蔵作品を館内の収蔵庫から外部の倉庫へと無事移送しました。23万冊に及ぶ美術情報センターの蔵書も同様です。7月には工事事業者に建物を引き渡し、全職員が仮事務所への引越しを完了しました。

では休館して最初の年となる本年度、美術館はどんなことに取り組んできたのでしょうか。特色のあるものを以下に概観します。

まず展覧会事業として、「New Artist Picks: Wall Project 村上早 | Stray Child」（2022年3月12日 - 11月6日）をあげましょう。これは美術館を覆う工事用仮囲いを使って若手アーティストに作品を発表してもらうという、当館初の試みです。

また仮事務所でレクチャーやワークショップを実施する「やどかりプログラム」、および市内18区の区民文化センター等に職員や講師が出向いて同様の事業を行う「横浜〔出前〕美術館」の2つが新規の取組みとしてあげられます。「やどかりプログラム」については、コロナ禍によりオンラインによる配信となったものが少なくありません。

さらに本年度は、令和5（2023）年度のリニューアルオープンに向け、一部文化庁「文化観光拠点計画」に伴う補助金も活用し、さまざまな検討プロジェクトを始動させたことも特徴です。

その1つが「デザインプロジェクト」です。これは、大階段を有するホールスペース、「グランドギャラリー」を含む「美術の広場」に面したエリアの活用を検討するものです。お客様にとって心地よい環境を内装や什器によっていかに整備するか、令和4（2022）年度に予定する建築家選定に向け、部署横断で検討を重ねました。

学芸グループによる「コレクションの魅力発信プロジェクト」もあげましょう。これは、当館コレクション検索サイトにて、所蔵作品画像の公開を拡充するとともに、専門用語をなるべく減らし、平易な言葉で新たに書き下ろした解説（和英）750本を順次アップしていくというものです。

また教育普及グループによる「e未来プロジェクト」も新たな取組みの1つです。このプロジェクトでは、30年以上に及ぶ当館教育普及事業の蓄積の豊かさを再認識しつつ、それをリニューアルオープン後の事業の構想につなげるための提言書をまとめました。

外部連携の事例としては、近隣企業の若手社員と当館内グループ横断の職員による協働の成果として、コレクション鑑賞アプリ「みるみるアート きみはだれ?」をリリースしたことがあげられます。

さらに、休館中も美術館が動いていることを広く知っていただくため、note公式アカウントを開設し、神奈川新聞紙上でコレクションを紹介する連載も開始しました。

その他、「ウェブサイト リニューアルプロジェクト」、「ショップ・カフェ リニューアルプロジェクト」（いずれも経営管理グループ）など、生まれ変わった美術館がより多くの方にとって便利で身近な場所となるよう、さまざまに検討を進めました。ここに記したものはそのほんの一部に過ぎません。

設立32年目にして初めて取り組む事業ばかりで、全職員が息をつく暇もない1年となった本年度。その活動の記録をお届けいたしますので、ぜひお目通しください。

蔵屋美香
横浜美術館館長

目次

基本方針・沿革	7
展覧会事業	
概要	9
New Artist Picks: Wall Project 村上 早 Stray Child	10
調査研究・普及活動(個人)	12
美術情報センターの活動	16
教育普及事業	
概要	17
鑑賞サポート	20
子どものアトリエ	21
市民のアトリエ	22
市民協働、地域社会や市民生活に貢献する事業	
市民協働	23
地域社会や市民生活に貢献する事業	24
美術品の収集、保存・修復、貸出	
収集	26
保存・修復	27
貸出	29
広報の活動、外部と連携した事業	
広報	31
外部と連携した事業	32
来館者へのおもてなし	33
国際的な交流・発信	34
資料	
入館者数・収支	36
役員等・組織図	37
職員名簿	38
条例・施行規則	39
施設概要・利用案内	44

基本方針・沿革

基本方針：国際都市横浜にふさわしい世界に開かれた美術館を目指して

公益財団法人横浜市芸術文化振興財団は、横浜市との政策協働による指定管理者制度に基づき、平成25年度から10年間にわたり横浜美術館の運営を担っています。10年間にわたる重点項目として、「発信力の強化」「教育プログラムの強化」「市民とつながるプログラムの強化」「営業力の強化」「経営基盤と人材の強化」の5つを定め、次に掲げる美術館を目指しています。

- ・市民の誰もが美術に親しみ、多くの市民に「観る」「創る」「学ぶ」機会を提供することにより、市民の創造性を育み、心豊かで活力に満ちた生活の実現に貢献する美術館。
- ・世界各国の美術館や美術関係者などとのネットワークの強化や国際交流を促進するとともに、横浜独自の魅力的で質の高い美術文化を国内外に発信することにより、国際都市横浜の魅力とアイデンティティの確立に貢献する美術館。
- ・市民、学校、NPO、企業等の様々な立場や年代、属性を持つ人々と協働することにより、市民から親しまれ、市民が集う、地域に開かれた美術館。
- ・未来を担うこどもたちの創造性を育むため、地域の学校や大学などと連携した取り組みを進め、文化芸術教育の中心的な役割を担う美術館。

沿革

昭和62年10月	運営組織として財団法人横浜市美術振興財団設立
昭和63年3月	建物竣工
9月	横浜美術館条例制定
平成元年2月	外構工事完了
3月25日	美術館開設(横浜博覧会施設として)
11月3日	横浜美術館条例施行・開館
平成14年4月	運営組織が財団法人横浜市文化振興財団と統合され、財団法人横浜市芸術文化振興財団となる。
平成18年4月	管理運営に指定管理者制度が導入され、財団法人横浜市芸術文化振興財団が指定管理者となる。(2年間)
平成20年4月	横浜市芸術文化振興財団・相鉄エージェンシー・三菱地所ビルマネジメント共同事業体が指定管理者となる。(5年間)
平成21年7月	財団法人横浜市芸術文化振興財団が公益法人として認可され、公益財団法人横浜市芸術文化振興財団となる。
平成25年4月	公益財団法人横浜市芸術文化振興財団が指定管理者となる。(10年間)

展覧会事業

概要

展覧会は美術館で実施されるさまざまな活動のなかでも、中心的な事業です。横浜美術館では、現在、おおむね次の4種類の展覧会を実施しています。

1つめは、企画展と呼ばれる展覧会です。内外の美術館やコレクターなどから、一定のテーマに基づいて作品や資料を借用し展覧会を構成します。2つめは、コレクション展です。美術館が収集してきた美術品や資料をご覧いただく展覧会です。3つめは、「New Artist Picks」(NAP)という呼び名を持つ展覧会です。今後の活躍が期待される若いアーティストが、小企画スペースであるアートギャラリー1、グランドギャラリーなど、館内のさまざまな場所を使って意欲的な作品を発表します。そして4つめとして、2011年度から横浜トリエンナーレを企画展事業のひとつとして位置づけています。

企画展

横浜美術館は次のような基本方針により、年間3～4本、バラエティに富んだ内容で企画展を実施しています。平成元年の開館以来、これまでに129本の企画展が開催されました。

- 1 国際港都横浜にふさわしい世界的な視野の企画。
- 2 地域の人々が現代美術に親しみ、現代美術に対する理解を促すような企画。
- 3 横浜と日本写真史の関係を重視し、国際的視野における現代までの写真を多角的にとらえた企画。
- 4 近代日本の美術および横浜ゆかりの美術展。特に原三溪ゆかりの作家を重視しつつ、開港以来の洋画・日本画の流れを歴史的にとらえた企画。また、横浜出身または在住作家を中心に、横浜の美術史を多角的に紹介する企画。
- 5 建築、工芸、デザインなど生活に密着した分野の企画。

コレクション展

当館では、4部屋の展示室を使って、年間1～2回の展示替えをおこない、コレクションを紹介しています。約13,000点のコレクションの中から、常時200～300点の作品を厳選して展示します。毎回テーマを設定することで、さまざまな角度からコレクションの魅力にアプローチをしています。当館の収集方針に基づき、分野ごとの特徴をわかりやすく展示する会期もあれば、全体を統一したテーマで構成し、分野を横断した展示を行うこともあります。

New Artist Picks (NAP)

NAP(ナップ)は、New Artist Picksの頭文字を採った呼び名で、横浜美術館の学芸員が独自の視点で選出する国内外の新進アーティストによる小展覧会です。2006年から進めてきた若手作家支援のプログラムのひとつで、年1回程度実施し、入場無料でご覧いただけます。

横浜トリエンナーレ

横浜トリエンナーレは、横浜市内で3年に1度開催する現代アートの国際展です。国際的に活躍するアーティストの作品を展示するほか、新進のアーティストも広く紹介し、世界最新の現代アートの動向を提示しています。2001年に第1回展を開催して以来回を重ね、世界の情勢が目まぐるしく変化する時代の中で、世界と日本、社会と個人の関係を見つめ、アートの社会的な存在意義をより多角的な視点で問い直してきました。第1回(2001年)から第3回(2008年)までは独立行政法人国際交流基金が主催団体のひとつとして事務局を担い、現代アートを通じて日本と各国との文化交流を促すことを目的に事業を実施してきました。第4回(2011年)以降、運営の主体を横浜市に移した後も、文化庁の支援を受けたナショナルプロジェクトとして、そして文化芸術創造都市・横浜を象徴するプロジェクトとして開催を重ね、横浜美術館をメイン会場のひとつとして、多数の来場者を迎えています。



New Artist Picks: Wall Project 村上 早 | Stray Child

当館では、将来活躍が期待される若手アーティストを紹介する小企画展「New Artist Picks」を、2007年よりアートギャラリーなど館内の展示スペースで開催してきました。

大規模改修工事による休館中は、その特別版となる「Wall Project」として、グランモール公園「美術の広場」に面した工事用仮囲いで、2回にわたり若手アーティストの創作を紹介します。

第1回目は、銅版画を主な表現手法とする村上早を紹介しました。村上は、自らの制作を「銅版を傷つける」行為ととらえ、「銅版に刻まれた線は心の傷、線を埋めるインクは血、インクを載せる紙はガーゼ(包帯)」と述べています。

本プロジェクトでは、「傷」をテーマに創作を続ける村上の作品を通して、人間の弱さを再確認する一方、傷つきながらも再生していく力の存在を示すことを目指しました。また、作家にとっては初の屋外展示となり、美術館の建物や「美術の広場」などの公共空間と、街行く人の動きを意識した作品配置が実現しました。

本プロジェクトは2022(令和4)年度も継続し、仮事務所で実施する「やどかりプログラム」の一環としてアーティストトークを開催したほか、担当学芸員によるアーティスト・インタビューをウェブサイトで公開しました。

主催: 横浜美術館
協力: コバヤシ画廊
場所: 横浜美術館前仮囲い(グランモール公園「美術の広場」)
期間: 令和4年3月12日(土) - 11月6日(日)
開催日数: 240日
観覧料: 無料
出品作品数: 18点
出展作家: 1人
担当: 大澤紗蓉子
リーフレット: 14頁
 発行・編集: 横浜美術館
 執筆: 大澤紗蓉子「Stray Child 一人間と動物、死と再生」



ステッカー



リーフレット

ステッカー・リーフレットデザイン:
阿部太一

撮影: 橋本裕貴

調査研究・普及活動（個人）

紀要

横浜美術館研究紀要

第23号, 2022年

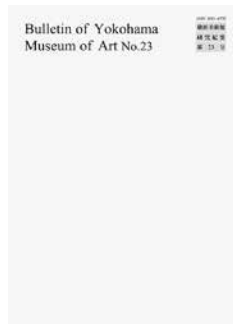
138頁

発行日: 令和4年3月31日(木)

発行部数: 420部

掲載論文:

- ・大澤紗蓉子／【研究ノート】1920-40年代の在米日本人写真家たちに関する基礎調査—日本人カメラ・ピクトリアリスト・オブ・カリフォルニアに関する概要と年表
- ・片多祐子／1960年代の横浜における美術館構想—横浜美術館コレクション展「ヨコハマ・ポリフォニー: 1910年代から60年代の横浜と美術」補論
- ・木村絵理子／【事業報告】横浜美術館写真コレクションによる「昭和の肖像—写真でたどる『昭和』のひとと歴史」から「Hanran: 20th-Century Japanese Photography」まで
- ・端山聡子／『ペリー艦隊日本遠征記』から抽出する画家と写真家の仕事—「挿絵総目録」の作成と考察、記述にあらわれる画家と写真家—



収蔵品目録

横浜美術館収蔵品目録2020

(令和2年度)

24頁

発行日: 令和4年3月31日(木)

発行部数: 500部



普及活動（個人）

◎執筆・寄稿

蔵屋美香

- ・『あの人』(暗☆闇香名義)『疾駆 chic ZINE』第1号, YKG Publishing/ Yutaka Kikutake Gallery Books, 2021年4月10日(土)
- ・『ただ見る『東京オリンピック2017 都営霞ヶ丘アパート』』青山真也編著『東京オリンピック2017 都営霞ヶ丘アパート』左右社, 2021年8月13日(金)
- ・『ひとときエッセイ『そして旅へ』光と色の祝祭』月刊『ひととき』ウェッジ, 2021年9月号
- ・『『アフリカからアートを売り込む 企業×研究』共同通信社, 2021年9月
- ・『どうなる? どうする? ヌードの現在 過去 未来』『芸術新潮』新潮社, 2021年11月号
- ・『なぜ、青木繁『海の幸』と“共演”したのか。』『ジャム・セッション 石橋財団コレクション×森村泰昌 M式『海の幸』—森村泰昌 ワタシガタリ』の神話』TOKYO ART BEAT, 2021年11月2日(火)
- ・『10年の回顧: 蔵屋美香評『加藤翼 縄張り』と島』展』ウェブ版『美術手帖』, 2021年11月5日(金) 公開
- ・『絵画は流れる水のごとく: 蔵屋美香評 佐々木健『合流点』』ウェブ版『美術手帖』, 2021年11月13日(土) 公開
- ・『2022年読書アンケート』『みすず』みすず書房, 2022年1・2月号
- ・『コレクションはどこから生まれ、いま何をして、それからどこへ向かうのか—東京国立近代美術館と横浜美術館の例を中心に—』『J[アール]: 金沢21世紀美術館紀要』第9号, 金沢21世紀美術館, 2022年3月31日(木)

木村絵理子

- ・『風景画としての映像表現—吉田真也』, 『新人大図鑑2021』『美術の窓』生活の友社, 2021年5月号
- ・『彫りおこされた絵画』nca | nichido contemporary art『今西真也 かー ーか ー』展, 2021年9月10日(金) - 10月16日(土)
- ・『並び立つ世界、並び立つ生命』『GIFT YUICHI HIRAKO』美術出版社, 2021年9月17日(金) 発行

- ・『吸収ではなく他者を認めること—『交わる水—邂逅する北海道／沖縄』展』『沖縄タイムス』, 2021年11月3日(水祝), [有限会社クンスト(CAI 現代芸術研究所／CAI03)による展覧会事業報告書に転載, 2022年3月1日(火) 発行]
- ・『ヨコハマトリエンナーレ2020開催を経て、次に向けての1000日間』オンライン・マガジン『ネットTAM(トヨタ・アート・マネジメント総合情報サイト)』『リレーコラム: ウイズコロナでの挑戦、第4回』2021年12月1日(水) 公開
- ・オンライン・マガジン『ARTnews JAPAN』『30ARTISTS U35 2022』作家推薦および推薦コメント

端山聡子

- ・『「みる、かんじる、つくる、かんがえる、はつけんする」を行き来して』『多摩美術大学 海老塚耕一先生退職記念文集—水の余白に』2021年12月
- ・『中学校教員と美術館職員が共につくる授業を生徒に』『学校と共創する美術で学ぶ平和教育』長崎県美術館内学校と共創する美術で学ぶ平和教育実行委員会, 2022年3月

片多祐子

- ・『コロナ禍での海外美術展: 2020年度に横浜美術館で開催された展覧会の事例から』『文化資源学』第19号(特集「コロナ禍と文化資源学」), 2021年6月

八柳サエ

- ・図録あいさつ文『第30回奨励学生美術展』佐藤国際文化育英財団, 2021年9月7日(火) - 10月7日(木)

大澤紗蓉子

- ・『System of Culture』『VOCA展2022 現代美術の展望—新しい平面の作家たち—』図録, 『VOCA展』実行委員会／上野の森美術館, 2022年3月

南島 興

- ・ゴッホ作品解説および年表『東京藝術大学スーパークローン文化財 謎解き「ゴッホと文化財」展 つくる文化∞つなぐ文化』そごう美術館、2021年7月31日(土)~8月31日(火)
- ・「ライオン・ガンダーが選ぶ収蔵品展」レビュー、ウェブ版『美術手帖』、2021年7月15日(木) 公開
- ・倉敷安耶個展「そこに詩はない。それは詩ではない。」展覧会テキスト、myheirloom、2021年12月2日(木) - 19日(日)

◎発表・講演会・シンポジウム

蔵屋美香

- ・オンライン・レクチャー「組織としての美術館における人事サポート制度のさまざま」[art for all]、5月1日(土)
- ・「現代美術をわかりたい人のために、あえて美術の歴史をさかのぼる講座」[美術をわかりたい人のために 絵画を見るためのプチ講座] Think School、5月22日(土)
- ・「たとえば、高松次郎と比べてみる」[宇佐美圭司 よみがえる画家] 展 オンライン・シンポジウム「よみがえる画家／よみかえる眼」東京大学、5月30日(日)
- ・オンライン・シンポジウム「How Female *Nihon-ga* Artists Behaved and Been Treated by Japanese Society?」[Some Generations of Museum Buildings in Japan: And What Comes Next?] [第10回フオンテヌブロー美術史フェスティバル]、6月6日(日)
- ・「中谷ミチコ×蔵屋美香 絵画と彫刻のあいだ・気配のありか」NANAWATA、12月5日(日)
- ・「批評と学芸：蔵屋美香 聞き手：中尾拓哉」美術評論家連盟、1月21日(金)
- ・令和3年度第45回東京五美術大学連合卒展・終了制作展「座談会—学生たちがとことん話す、私たちのリアル—」ファシリテーター、五美大実行委員会、2月27日(日)
- ・トーク「小山渉×蔵屋美香」「青山真也×蔵屋美香」「友政麻里子×蔵屋美香」「すみっこ☆CRASH展」、無人島プロダクション、3月12日(土)・13日(日)・19日(土)
- ・オンライン・シンポジウム「ヨコハマ／アート／ケイパビリティ」『「持続可能な社会」の技術（アート）『生き方の幅 capability』から考えるアート・社会・経済—持続可能な都市の文化政治学』東京大学、3月18日(金)
- ・シンポジウム「未来を“つくる”美術館フォーラム 鳥取県立美術館が目指すコレクション・ラーニング・地域連携のこれから」倉吉未来中心、3月27日(日)

帆足亜紀

- ・講演会「MICEビジネス初級編実践型講座」日本コンベンションサービス株式会社 MICE 都市研究所、1月14日(金)

木村絵理子

- ・オンライン・トーク「CADAN アートチャンネル 画廊放浪記 #14」今西真也個展『カー カー カー』— 一般社団法人日本現代美術商協会／ミューゼオ株式会社、9月11日(土)
- ・鼎談「平子雄一初作品集「GIFT YUICHI HIRAKO」刊行記念、平子雄一×木村絵理子×岩淵貞哉」カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社、9月28日(火)
- ・オンライン・トーク「Curator's Voices Vol.02」木村絵理子×田中みゆき」3331 Art Fair 2021、10月27日(水)
- ・ゲストトーク「Open Storage 2021 — 拡張する収蔵庫 —」MASK [MEGA ART STORAGE KITAKAGAYA]、一般財団法人おおさか創造千島財団、10月31日(日)
- ・鼎談「世界のアートシーンから見える沖縄の現在」『やんばるアートフェスティバル2021-2022』やんばるアートフェスティバル実行委員会、12月18日(土)

襟川文恵

- ・オンライン・トーク「横浜市西区100人カイギ」7月30日(金)
- ・オラクルひと・しくみ研究所 対談、2月7日(月)

大澤紗蓉子

- ・アーティスト・トーク「エマーゲンシーズ! 040 梅沢英樹+佐藤浩一《Structures of Liquidity(液体性の構造)》」NTTコミュニケーション・センター[ICC]、11月13日(土)

日比野民蓉

- ・発表「モノクローム絵画と『韓国性』の創出」国際シンポジウム “Trans-cultural Exchanges: Mapping Movement of Art, Ideas, and People in Asia”九州大学アジア・オセアニア研究教育機構文化変動クラスター、2月12日(土)

南島 興

- ・トーク「アートガイア・コミュニティ」株式会社 AG ホールディングス、7月24日(土)
- ・シンポジウム「現代ARTの保存修復—教育×実践—」東北芸術工科大学文化財保存修復研究センター、11月14日(日)
- ・トークイベント「アート・ジャーナリズムの夜」NAKED LOFT YOKOHAMA、12月17日(金)、1月25日(火)、2月22日(火)、3月23日(水)

◎非常勤講師等

蔵屋美香

- ・多摩美術大学客員教授
- ・日本大学芸術学部・大学院芸術学研究科 非常勤講師、通年
- ・千葉大学教育学研究科美術専攻1・2年 特別講義、2月3日(木)

柏木智雄

- ・慶應義塾大学、文学部「博物館経営論」、後期
- ・横浜国立大学大学院・都市イノベーション学府「近代美術論」、前期
- ・関東学院大学、公開講座「横浜学 横浜開港場に開花した横浜文化にみる日本の近代」11月30日(火)
- ・公益財団法人東京都歴史文化財団「『(仮称) 改定長期ビジョン』策定に係る有識者ヒアリング」講師、1月27日(木) から令和4年度内

帆足亜紀

- ・神奈川大学、外国語学部「総合講座・中国と世界」、前学期

山崎 優

- ・「第1回公立幼稚園・こども園新規採用教員研修講座」講師、神奈川県教育委員会、5月14日(金)
- ・神奈川県私立幼稚園連合会「中堅教諭対象講習会」6月16日(水)、7月14日(水)、8月25日(水)
- ・「長崎県私立幼稚園協会第6回教師研修会」講師、2月18日(金)

内山淳子

- ・上智大学「ヨーロッパの芸術と文化」、11月16日(火)
- ・三溪園美術品特別展示鑑賞会「高付加価値コンテンツ体験会」講師、横浜観光コンベンションビューロー、2月22日(火)

木村絵理子

- ・共立女子大学「博物館学概論」、後期
- ・女子美術大学「アートプロデュース概論」、後期
- ・多摩美術大学彫刻学科3年生作品展示会、講評、7月23日(金祝)
- ・東京藝術大学大学院美術研究科グローバルアートプラクティス専攻修士課程2年生、講評、ディスカッション、12月8日(水)

調査研究・普及活動（個人）

- ・東京藝術大学美術学部油画専攻修了制作展, 講評, 1月30日(日)
- ・市川市市民文化サポーター養成講座第5回「美術に親しむ（現代美術編）」講師, 3月17日(木)

木下貴博

- ・横浜美術大学「彫刻表現Ⅰ」「彫刻表現Ⅱ」, 前期

端山聡子

- ・多摩美術大学「生涯学習論R」, 前期
- ・多摩美術大学「美術普及概論」, 後期
- ・跡見学園女子大学, 「博物館教育論」外部講師, 7月16日(金)
- ・立教大学社会デザイン研究所 博物館とソーシャルデザイン研究会「博物館とソーシャルデザイン研究会」第3回研究会講師, 10月17日(日)

襟川文恵

- ・「美術館運営における渉外体制構築のための教育研究」講師, 株式会社 ニューアートティフュージョン, 6月10日(木)・11日(金)
- ・横浜美術大学, クリエーターサバイバル論「実際の仕事について知る」授業内講義・技術指導, 前期7月20日(火), 後期12月21日(火)

片多祐子

- ・京都芸術大学「通信教育部博物館学芸員課程博物館資料論」, 後期
- ・横浜雙葉中学高等学校「キャリアガイダンス」講師, 11月24日(水)

八柳サエ

- ・昭和女子大学, 人間文化学部「博物館情報・メディア論」, 通年
- ・法政大学, 市ヶ谷リベラルアーツ, 特別講義「美術館の役割」講師, 12月2日(木)

坂本恭子

- ・横浜国立大学「アート・マネジメント」講師, 11月16日(火)

日比野民蓉

- ・慶應義塾大学, 文学部「美術史特殊ⅡE」, 後期
- ・東洋英和女学院大学「芸術学B」, 7月22日(木祝)

南島 興

- ・青山学院大学「ミュージアム実習Ⅱ」(アートビジネス実践) ゲストスピーカー, 11月23日(火祝)

◎委員・審査員等

蔵屋美香

- ・山梨県立美術館専門委員
- ・豊田市美術館収集委員
- ・愛知県美術館美術品収集委員会
- ・2021年度三菱商事アート・ゲート・プログラム(MCAGP)「アクティベーション」選考委員兼メンター
- ・金沢市美術館美術品収集委員会委員
- ・令和7年度版中学校「美術」教科書編集委員(代表著者: 酒井忠康)
- ・滋賀県立美術館協議会委員
- ・第38回京都賞 思想・芸術部門審査委員会委員
- ・公益財団法人アイスタイル芸術スポーツ振興財団 2022年度「現代芸術振興助成」選考委員
- ・横浜美術館協力会顧問
- ・一般財団法人奈良美智財団理事

柏木智雄

- ・日本経済新聞社「第8回東山魁夷記念日経日本画大賞」推薦委員

- ・「令和3年度(第72回)芸術選奨文部科学大臣賞、文部科学大臣新人賞」選考審査員
- ・東京国立近代美術館美術作品購入等選考委員会委員(美術部門)
- ・横須賀美術館運営評価委員会委員
- ・公益財団法人馬事文化財団馬事博物資料審査委員会審査委員, 11月11日(木)

松永真太郎

- ・東京国立近代美術館美術作品評価員(写真部門)
- ・東京都写真美術館作品資料収蔵委員会委員

帆足亜紀

- ・公益財団法人東京都歴史文化財団トーキョーアーツアンドスペース外部評価委員会委員
- ・小笠原敏晶記念財団文化・芸術助成事業の選考委員
- ・アーツ前橋滞在制作事業審査委員

木村絵理子

- ・アーツコミッション・ヨコハマ「2021年度 U39アーティスト・フェローシップ」審査員
- ・「アートアワードトーキョー丸の内2021」審査員
- ・公益財団法人東京都歴史文化財団アーツカウンシル東京、令和3年度第2期東京芸術文化創造発信助成(美術・映像分野) 有識者審査
- ・「シェル美術賞2021」審査員
- ・「3331 ART FAIR 2021」作家推薦者
- ・一般財団法人アジア・カチュラル・カウンシル日本財団アジア・カチュラル・カウンシル2022年度日本グラントプログラム「ビジュアルアート部門」審査員代表

端山聡子

- ・「子供たちのための伝統文化の体験機会回復事業」に係る審査委員会委員
- ・「伝統文化親子教室事業」及び令和3年度第一次補正予算事業「子供たちの伝統文化体験事業」協力者会議委員
- ・科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)(一般)「開国期・「虚像」による日本観の形成に関する基礎研究: その他方法論を中心に」プロジェクトメンバー
- ・藤沢市アートスペース運営協議会委員

襟川文恵

- ・一般社団法人日本和文化振興プロジェクト「日本和文化グランプリ」審査員
- ・東方文化支援財団「PROJECT ATAMI / ATAMI ART GRANT」審査員
- ・「ART DEMOCRACY Inclusive Art Fest 2021」審査員

八柳サエ

- ・川越市立美術館美術品等選考評価委員会委員
- ・佐藤美術館奨学生選考委員
- ・シドモア桜の会横浜理事

大澤紗蓉子

- ・「VOCA展2022 現代美術の展望—新しい平面の作家たち—」作家推薦

森 未祈

- ・学校法人写真学園東京総合写真専門学校評議員

◎その他

蔵屋美香

- ・文化庁令和3年度大学における文化芸術推進事業「東京大学 | 文化芸術におけるSDGsのためのファシリテーター養成事業」意見交換出席
- ・青山真也編著『東京オリンピック2017 都営霞ヶ丘アパート』編集業務, 左右社, 8月13日(金)
- ・「すみっこ☆CRASH」展ゲストキュレーション, 無人島プロダクション, 3月5日(土)

帆足亜紀

- ・せんだいメディアテーク「せんだい・アート・ノード・プロジェクト」アドバイザー
- ・文化庁「我が国の文化芸術フェスティバルの海外発信に係る調査分析、シンポジウム等の企画運営業務」に係るヒアリング, 11月16日(火)

木村絵理子

- ・J-WAVE、TAKRAM RADIO 出演「美術館と表現の自由～ポリコレと、その他のルール」(司会: 渡邊康太郎), 4月16日(金) 放送
- ・nca | nichido contemporary art, 「Identity XVII - 拡張家族-」展、ゲスト・キュレーター[会期: 7月2日(金)-8月7日(土)]
- ・ウェブインタビュー「キュレーター／ギャラリーに聞く、5年先のアートとは？」オンライン・マガジン『FUTURE IS NOW』大丸松坂屋百貨店未来定番研究所, 9月8日(水) 公開

襟川文恵

- ・日産自動車株式会社 社員勉強会(オンライン) 講師, 11月26日(金)

日比野民蓉

- ・李聖禮「二十世紀前半の韓国における『風景』の認識とその受容」(『美術研究』435号, 東京文化財研究所, 2021年) の韓国語から日本語への翻訳

長谷川菜穂

- ・ポーラ美術館 図書資料整理アドバイザー, 7月8日(木)

美術情報センターの活動

美術情報センターは、美術に関する図書資料、映像資料等を収集、整理、保存し、市民や研究者の利用に供することを目的としています。また、所蔵資料を活用し、コレクション展との連携を行っています。

* 令和3年度は大規模改修工事のため休室

収集・整理・保存・利用状況

収集実績	購入	寄贈	合計
和書	173冊	399冊	572冊
洋書	119冊	89冊	208冊
和カタログ	6冊	850冊	856冊
洋カタログ	24冊	70冊	97冊
図書資料収集総数			1,733冊
逐次刊行物収集総数			1,703冊
蔵書総数			237,956冊
逐次刊行物			3,506タイトル

オンラインイベント

市民のアトリエ共同講座
ライブラリー・トーク vol.4
造本家・町口寛に聞く写真集のこと
* 市民のアトリエ ワークショップ ライブラリー・トーク 参照(p.22)

教育普及事業

概要

横浜美術館の教育普及活動は、企画展やコレクション展に多角的な視点で関わる〔鑑賞サポート〕と、アトリエを中心に展開される〔創作・造形プログラム〕とを組み合わせ、特色ある事業を展開しています。また、学校教育や環境啓発・医療・福祉など、地域や社会と連携した取組みも積極的に行っています。

鑑賞サポートには、学芸グループによる企画展関連プログラムと、教育普及グループ「教育プロジェクト」によるコレクション展関連プログラムがあります。学芸グループは企画展における学芸員や多彩なゲスト、アーティストによる講演会やトーク、シンポジウムなどを開催しています。「教育プロジェクト」は職員の持つ専門性を活かしたコレクション展ギャラリートークや中高生を対象にした個人向けや学校向けのプログラムのほか、鑑賞ボランティアをはじめとする市民協働の担い手を育成し、学校教育や地域の福祉支援団体と連携して美術館を市民生活に繋げる取組みを行っています。

「子どものアトリエ」は、小学校6年生（12歳）までの子どもを対象とし、主体性の獲得を目的にエドゥケーターによるさまざまな造形体験を提供しています。「プレイルーム」「クラフトルーム」「光と音のスタジオ」において、平日には幼稚園・保育園、小学校、特別支援学校などの教育機関と連携し造形や鑑賞の活動を行う「学校のためのプログラム」を、休日には個人を対象とした「親子のフリーゾーン」や「造形講座」を行っています。春と夏には「教師のためのワークショップ」を開催し、指導者への研修事業に取り組んでいます。

「市民のアトリエ」は、12歳以上を対象に、「つくる」プロセスを通して市民と作家、市民と市民が出会い、美術に親しむ場を提供しています。本格的な設備を有する「立体室」「平面室」「版画室」では、楽しくアートとふれあう講座から専門的な創作体験まで、幅広いワークショップを展開し、さらに各室を「オープンスタジオ」として開放し、市民の自主的な制作を支援しています。また、エドゥケーターと学芸員の連携により、展覧会に関する作品・作家、技法紹介など多彩なプログラムを企画し、より深い鑑賞へと誘います。

令和3年度の総括

年度当初は、仮拠点PLOT 48へ移転する7月末を目指して、開館以来の大量の物資を整理し、引越作業を行いました。移転後は、PLOT 48において10月から予定していた「やどかりプログラム」、市内18区への出張講座「横浜〔出前〕美術館」などさまざまなプログラムの実施に向けて準備をしました。

8月末からの新型コロナウイルス感染症の急激な拡大により、「やどかりプログラム」は、急遽オンラインへの転換や内容の全面変更などを行い、11月からオンラインで実施し、PLOT 48のスタジオでの対面型事業は1月以降の開始としました。

館全体の休館中の事業として取り組んだ「横浜〔出前〕美術館」は、教育普及グループ、経営管理グループ、学芸グループが業務や提供コンテンツを分担して取り組むなど、昨年度にひき続き横断的な連携が加速しました。

特筆すべき動きとして、教育普及グループ内に、若手職員を中心としたリニューアルに向けた事業のありかたを検討するためのプロジェクトを発足させました。さまざまなリサーチや意見交換を経て、新たな時代に向けた、美術館の教育普及としてあるべき姿を目指す提言と事業の具体化に向けた議論をしました。





鑑賞サポート

企画展関連

◎中高生プログラム

担当: 端山聡子, 古藤 陽

●番外編・記録誌編集委員会

日時: 5月9日(日) 13:00~15:00

5月30日(日) 14:00~16:00

オンライン

参加人数: 4人, 4人

やどかりプログラム

「横浜ベイエリアの歴史と文化を巡る」シリーズ講座

担当: 端山聡子, 北川裕介

●「明治の横浜を歩く―残された着彩写真を題材に―」

日時: 11月13日(土) 14:00~16:00

講師: 西川武臣(公益財団法人横浜市ふるさと歴史財団 横浜開港資料館館長)

対象: 12歳以上

オンライン

参加人数: 56人

●「大正の横浜を歩く―関東大震災の写真と絵画を中心に―」

日時: 12月4日(土) 10:30~12:30

講師: 吉田律人(公益財団法人横浜市ふるさと歴史財団 横浜都市発展記念館 調査研究員)

対象: 12歳以上

オンライン

参加人数: 51人

●「横浜ゆかりの建築家たち―それは『象の鼻防波堤』からはじまった―」

日時: 2月12日(土) 10:30~12:30

講師: 青木祐介(公益財団法人横浜市ふるさと歴史財団 横浜開港資料館・横浜都市発展記念館 副館長)

対象: 12歳以上

オンライン

参加人数: 49人

●「歩くと楽しいヨコハマーみなとみらい・関内エリアの街づくり―」

日時: 3月19日(土) 10:30~12:30

講師: 桂 有生(横浜市都市整備局都市デザイン室 都市デザイナー)

対象: 12歳以上

オンライン

参加人数: 50人

人材育成事業

◎横浜美術館コレクションと学校をつなぐ鑑賞会

日時: 6月12日(土), 9月11日(土)

10:30~11:30

担当: 端山聡子, 古藤 陽, 北川裕介

オンライン

参加人数: 14人, 4人

◎横浜美術館コレクションを活用した授業のための中学校・美術館合同研究会

担当: 端山聡子, 古藤 陽

●報告会準備

日時: 6月5日(土)・6日(日)・20日(日)

10:00~12:00

会場: 8Fスクールスペース

参加人数: 2人, 2人, 2人

●公開研究会

日時: 12月11日(土) 13:30~16:00

オンライン

参加人数: 48人

◎教師向け研修等

受入件数: 1件

参加人数: 14人

受入団体: 長崎県教員(7月)

◎横浜市芸術文化教育プラットフォーム

図画工作科美術科専門研修

日時: 7月28日(水) 14:00~16:00

講師: 端山聡子, 古藤 陽

オンライン

参加人数: 21人

ボランティアによる活動

ボランティアによる「横浜街歩き・オンラインツアー」

日時: 3月2日(水)

10:30~12:00, 14:00~15:30

3月3日(木) 10:30~12:00

担当: 端山聡子, 北川裕介

オンライン

参加人数: 22人, 23人, 29人

ボランティアによる美術館建築発信

日時: 3月18日(金) から

担当: 端山聡子, 古藤 陽

オンライン



「横浜ベイエリアの歴史と文化を巡る」シリーズ講座



「横浜ベイエリアの歴史と文化を巡る」シリーズ講座



コレクションと学校をつなぐ鑑賞会



中学校・美術館合同研究会 公開研究会



図画工作科美術科専門研修



木の車をつくろう

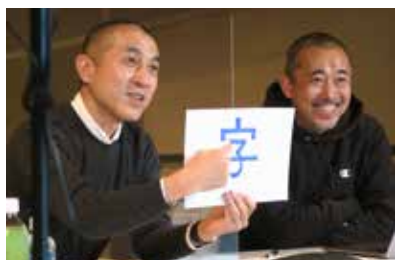
子どものアトリエ



光が透けるオリガミでつくろう！



“マイどうぶつ”をつくろう



ヨコハマビズカン(横浜微字図鑑)



て・ぶく郎をつくろう！



ハートグラム



デカルコマニーをやってみよう！

やどかりプログラム

◎ワークショップ

木の車をつくろう

【おうちワークショップ】

日時:11月6日(土) 10:30~11:30

講師:柳川文秀

担当:園田泰士, 太田雅子

参加費:1,500円

対象:小学校1・2・3年生とその保護者

オンライン

参加人数:22人

光が透けるオリガミでつくろう！

【おうちワークショップ】

日時:11月13日(土) 10:30~11:30

講師:市毛早矢香(造形講師)

担当:柳川文秀, 園田泰士, 太田雅子

参加費:700円

対象:小学校1・2・3年生とその保護者

オンライン

参加人数:17人

“マイどうぶつ”をつくろう

【おうちワークショップ】

日時:11月20日(土) 10:30~11:30

講師:うめぐみ(造形ワークショップユニット)

担当:柳川文秀, 園田泰士, 太田雅子

参加費:500円

対象:幼稚園・保育園の年長児とその保護者

オンライン

参加人数:20人

ヨコハマビズカン(横浜微字図鑑)

【オンライン・ワークショップ】

日時:11月27日(土)

Aコース 10:30~12:00

Bコース 14:00~15:30

講師:大日本タイポ組合(グラフィックデザイナー)

担当:森 未祈, 園田泰士

参加費:無料

対象:10歳以上

オンライン

参加人数:A6人,B10人

※市民のアトリエとの共催

て・ぶく郎をつくろう！

日時:1月29日(土)

Aコース 10:30~12:30

Bコース 13:30~15:30

講師:石澤彰一(押忍!手芸部部長)

担当:太田雅子, 森 未祈

参加費:1,500円

対象:10歳以上

会場:PLOT 48 シアター棟

参加人数:A6人,B4人

※市民のアトリエとの共催

ハートグラム ~自分のハートの重さを立体作品にしてみよう!~

日時:2月12日(土)

Aコース 10:30~12:00

Bコース 14:00~15:30

講師:こいちりょうじ(こども造形研究家)

担当:柳川文秀, 園田泰士, 太田雅子

参加費:1,500円

対象:小学校1・2・3年生

会場:PLOT 48 スタジオ

参加人数:A8人,B4人

デカルコマニーをやってみよう！

日時:2月26日(土) 10:30~12:00

講師:桜庭瑠実, 太田雅子

参加費:1,500円

対象:小学校1・2・3年生

会場:PLOT 48 スタジオ

参加人数:12人

教師のためのワークショップ 春季講座

【オンライン・ワークショップ】

日時:3月25日(金)

Aコース 10:00~12:00

Bコース 14:00~16:00

講師:山崎 優

担当:太田雅子

参加費:2,000円

オンライン

参加人数:A20人,B21人

映像公開

横浜美術館「美術館の裏側一作品の大移動」

日程:9月22日(水) 公開

担当:太田雅子, 桜庭瑠実

「じっくりみる この一点」

担当:太田雅子, 桜庭瑠実, 森 未祈

●斎藤義重《内部》

日時:1月19日(水) 公開

●ギュスターヴ・モロー《岩の上の女神》

日時:1月19日(水) 公開

横浜[出前] 美術館

*地域社会や市民生活に貢献する事業 横浜
[出前] 美術館 参照(p.25)

横浜市芸術文化教育プラットフォーム

*地域社会や市民生活に貢献する事業 横浜市
芸術文化教育プラットフォーム 参照(p.25)

市民のアトリエ

やどかりプログラム

ヨコハマビズカン(横浜微字図鑑)

※ 子どものアトリエとの共催

* 子どものアトリエ やどかりプログラム 参照
(p.21)

粘土でタマネギの形に学ぶ

【オンライン・ワークショップ】

日時:(各火曜) [3回] 12月7日・14日・21日
各14:00~15:00

講師:木下貴博

参加費:1,800円

対象:12歳以上

オンライン

参加人数:4人,4人,4人

て・ぶく郎をつくろう!

※ 子どものアトリエとの共催

* 子どものアトリエ やどかりプログラム 参照
(p.21)

横浜美術館のイサム・ノグチ作品について

日時:1月15日(土) 14:00~15:30

講師:中村尚明

聞き手:木下貴博

参加費:500円

対象:12歳以上

会場:PLOT 48 シアター棟

参加人数:15人

認知症幻視体験のお話を聞く

日時:2月1日(火) 14:00~15:00

講師:三橋 昭(レビー小体型認知症当事者)

聞き手:小池研二(横浜国立大学教育学部教授)
木下貴博

参加費:無料

対象:18歳以上

会場:PLOT 48 シアター棟

参加人数:23人

映像公開

「じっくりみる この一点」

担当:太田雅子, 桜庭瑠実, 森 未祈

●村上善男《Polymerization - N.V(W) の場合または腔内弾道学》

日程:11月19日(金) 公開

●白髪一雄《梁山泊》

日程:11月19日(金) 公開

はじめての糸紡ぎ

日時:2月19日(土) 13:30~16:00

講師:REIKOMONO(糸紡ぎ作家)

担当:木下貴博

参加費:3,000円

対象:12歳以上

会場:PLOT 48 スタジオ

参加人数:12人

デカルコマニーを体験しよう!

日時:2月26日(土) 14:00~16:00

講師:桜庭瑠実, 太田雅子

参加費:1,500円

対象:12歳以上

会場:PLOT 48 スタジオ

参加人数:10人

ライブラリー・トークvol.4

造本家・町口寛に聞く写真集のこと

【オンライン・トーク】

日時:3月12日(土) 14:00~16:00

講師:町口 寛(造本家/グラフィックデザイナー/パブリッシャー)

聞き手:木村絵理子

担当:長谷川菜穂, 桜庭瑠実, 森 未祈

参加費:無料

対象:12歳以上

オンライン

参加人数:31人

横浜市芸術文化教育プラットフォーム

* 地域社会や市民生活に貢献する事業 横浜市
芸術文化教育プラットフォーム 参照(p.25)



粘土でタマネギの形に学ぶ



イサム・ノグチ作品について



認知症幻視体験のお話を聞く



はじめての糸紡ぎ



デカルコマニーを体験しよう!



造本家・町口寛に聞く写真集のこと

市民協働、地域社会や市民生活に貢献する事業

市民協働



教育プロジェクトボランティア



教育プロジェクトボランティア

横浜市、学校、福祉関係機関、市民団体、ボランティア団体、NPO法人、企業などと協働し、美術館教育普及事業の活動を社会に広げます。特に、既存の市民団体、ボランティア団体の活動などとリンクさせることで、美術館の活動への支援を広げるよう努めています。

ボランティア

教育プロジェクトボランティア

活動期間：10月1日(金)～3月31日(木)

登録人数：47人

参加人数：延べ615人

主な活動内容

・研修会・勉強会	6回
・ヨコハマ・アートマップ	18回
・描かれた物語	6回
・丹下健三勉強会	6回

地域社会や市民生活に貢献する事業

美術館における教育普及事業を、地域社会や市民生活に貢献する事業に発展させていきます。学校教育連携事業、アウトリーチ、人材育成事業、環境啓発事業等を行っています。

アウトリーチ事業等

横浜国立大学連携

横浜国立大学教育学部授業(小池研二教授)
「社会と美術—市民のアトリエ」
日時:1月25日(火) 13:45~16:00
講師:木下貴博
会場:横浜国立大学教育学部(一部オンライン)
参加人数:9人
※2月1日(火)に連携公開講座「認知症幻視体験のお話を聞く」を実施 *市民のアトリエやどかりプログラム 参照(p.22)

若者支援プログラム

「ファームの土から絵具をつくる」
日時:3月22日(火) 13:30~15:45
担当:端山聡子,古藤 陽,北川裕介
会場:横浜南部ユースプラザ
ユースサポート・ユースワークふじさわ
参加人数:5人,6人

アウトリーチ

日時:3月23日(水) 14:00~16:00
担当:柳川文秀,園田泰士,太田雅子
会場:横浜市西部地域療育センター
参加人数:8人

本郷特別支援学校ワークショップ

日時:11月26日(金) 10:00~11:30
担当:北川裕介,端山聡子
オンライン
参加人数:15人

本郷中学校職業講話

日時:3月18日(金)
13:30~14:20,14:30~15:20
担当:端山聡子
オンライン
参加人数:30人,30人

日産自動車株式会社

社員研修講演

「1秒で伝える力 100年伝え続ける力」
日時:11月26日(金) 10:30~11:30
講師:襟川文恵
オンライン
参加人数:50人

HCD-Netフォーラム2021

「Beyond Design ~SDGs達成に向けた共創と社会実装~」

企画セッション:アートDX~街をやさしく
ReDesign~
主催者:特定非営利活動法人人間中心設計
推進機構(HCD-Net)
日時:11月27日(土) 11:00~12:30
登壇者:入江 真(株式会社野村総合研究所/
HCD-Net広報社会化事業部)
牛尾隆一(合同会社 OXT Lab)
襟川文恵
オンライン
参加人数:120人

男女共同参画センター横浜北対話型鑑賞ワークショップ

日時:1月18日(火) 15:00~16:00
講師:森 未祈
担当:襟川文恵
参加人数:11人

「MICE連絡会」講演

日時:1月20日(木) 14:00~16:30
登壇者:襟川文恵
オンライン
参加人数:30人

横浜市民ギャラリー連携

ハマキッズ・アートクラブ「オリジナルバッグをつくろう」

日時:2月19日(土) 13:30~15:30
担当:柳川文秀,園田泰士,太田雅子
参加費:1,500円
対象:小学校1・2・3年生
会場:横浜市民ギャラリー
参加人数:11人

横浜美術館法人向け芸術支援プログラム

Heart to Art参加企業特典

株式会社野村総合研究所
●コレクショントーク
「旅するセザンヌ」
日時:10月15日(金) 17:30~18:30
講師:片多祐子
オンライン
参加人数:35人

「写真コレクション」
日時:1月25日(火) 17:30~18:30
講師:松永真太郎
オンライン
参加人数:17人

●デッサンワークショップ

日時:12月6日(月) 17:00~18:30
講師:柳川文秀,桜庭瑠実
コーディネーター:襟川文恵
会場:野村総合研究所 社内スペース
参加人数:6人

「デコ車キット」提供

NTTテクノクロス株式会社
提供:6月,3月
配布先:医療施設系団体(3箇所)
数量:50台(合計)

株式会社野村総合研究所
提供:7月
配布先:職員家族
数量:30台

横浜信用金庫
提供:1月
配布先:市内幼児教育施設等
数量:160台

横浜市芸術文化教育プラットフォーム

横浜市立永田台小学校
日時:(各水曜) 10月13日・20日・27日
講師:三ツ山一志(造形教育家)
担当:山崎 優, 園田泰士, 太田雅子
参加人数:11人, 14人, 18人

横浜市立横浜吉田中学校
日時:12月10日(金)・17日(金), 2月28日(月)
講師:ヒサ クニヒコ(漫画家)
担当:木下貴博, 森 未祈
参加人数:143人, 135人, 123人

横浜市立本郷中学校
日時:1月24日(月), 2月7日(月)・22日(火)
講師:長島有里枝(写真家)
担当:木下貴博, 森 未祈
参加人数:113人, 103人, 113人

横浜市立港南中学校
日時:2月24日(木)・25日(金)
講師:新井 卓(写真家)
担当:端山聡子, 古藤 陽
参加人数:98人, 128人

人材育成等

教師を対象とした研修等
受入件数:2件
参加人数:32人
受入団体:横浜市特別支援教育研究会
(8月/オンライン, 12月)

横浜[出前]美術館

青葉区
学芸員によるレクチャー
「イサム・ノグチと神奈川」(あざみ野カレッジ)
日時:9月11日(土) 14:00～16:00
講師:中村尚明
担当:熊坂久美, 木村絵理子, 大澤紗蓉子
共催:横浜市民ギャラリーあざみ野
参加費:一般1,000円
あざみ野カレッジ学生証料金500円
会場:横浜市民ギャラリーあざみ野 セミナールーム2・3
参加人数:31人

栄区
学芸員によるレクチャー
「青い目のサムライ登場!～幕末の横浜で出会った和洋折衷オモシロ絵画『横浜絵』～」
日時:10月30日(土) 14:30～16:00
講師:八柳サエ
担当:熊坂久美, 木村絵理子, 大澤紗蓉子
参加費:無料
会場:横浜市民栄区民文化センター リリス会議室AB
参加人数:21人

西区
岩井優トーク
「かたづけたいけど、ちらかしたい。」
日時:12月4日(土) 14:00～16:00
講師:岩井 優(アーティスト)
担当:木下貴博, 森 未祈
共催:横浜市民ギャラリー
参加費:無料
会場:横浜市民ギャラリー アトリエ
参加人数:18人

磯子区
エデュケーターによるワークショップ
「オリジナルのエコバッグをつくろう」
日時:12月18日(土)
Aコース 10:00～11:00
Bコース 13:00～14:00
担当:柳川文秀, 園田泰士, 太田雅子
参加費:無料
対象:4歳～小学生とその保護者
会場:横浜市磯子区民文化センター 杉田劇場
ギャラリー
参加人数:A6組16人, B5組12人

鶴見区
学芸員によるレクチャー
「『穴』からのぞくシュルレアリスム～世界をワクワク見なおす方法～」
日時:1月22日(土) 14:30～16:00
講師:坂本恭子
担当:八柳サエ, 木村絵理子, 大澤紗蓉子
参加費:無料
会場:横浜市鶴見区民文化センター サルビアホール 3階 リハーサル室
参加人数:15人

戸塚区
学芸員によるレクチャー
「鎗木清方の春夏秋冬」
日時:2月26日(土) 14:30～16:00
講師:内山淳子
担当:八柳サエ, 木村絵理子, 大澤紗蓉子
参加費:無料
会場:横浜市戸塚区民文化センター さくらづラザ リハーサル室
参加人数:17人

金沢区
学芸員によるレクチャー
「横浜を代表する日本画家 下村観山の生涯と作品」
日時:3月19日(土) 14:00～15:30
講師:日比野民蓉
担当:八柳サエ, 木村絵理子, 大澤紗蓉子
参加費:無料
会場:横浜市長浜ホール ホール
参加人数:34人

美術品の収集、保存・修復、貸出

収集

美術資料収集方針

横浜美術館では、次のような方針に基づき作品を収集しています。（令和4年3月現在13,173件所蔵）

- 1 西洋文化の流入窓口であった横浜開港当時のヨーロッパ近代美術と日本近代美術の相互影響の足跡がたどれる作品
- 2 (1) 現代美術の展開と流れの鳥瞰に役立つ作品
(2) 今日の美術が内包する問題点を明確に表している作品
(3) 近代美術の一分野としての写真の代表作品
(4) 現代の市民生活に密着した分野(デザイン、工芸、建築、ビデオ)の代表作品
- 3 横浜ゆかりの代表的作家の作品
(1) 岡倉天心との関係を含めて、原三溪に庇護された、日本近代美術の発展に寄与した作家の作品
(2) その他、横浜ゆかりの代表的作家の作品
- 4 以上の美術に関連する資料

収集実績

分野別作品収集体数（ ）内が3年度収集点数

	日本画	油彩その他の絵画	版画	水彩・素描	彫刻・立体	工芸	写真・映像	作品外資料*	合計
購入	164 (0)	199 (0)	1,614 (0)	63 (0)	47 (0)	82 (0)	3,206 (0)	0 (0)	5,375 (0)
寄贈	793 (42)	336 (14)	1,936 (11)	1,760 (22)	69 (4)	105 (4)	1,217 (133)	1,582 (1)	7,798 (231)
合計	957 (42)	535 (14)	3,550 (11)	1,823 (22)	116 (4)	187 (4)	4,423 (133)	1,582 (1)	13,173 (231)

*「作品外資料」とは、美術作品そのものではなく、例えば、書簡のように画家・作家の足跡、交友関係がたどれる資料や、作品の制作に使用した道具のよう
に、制作の背景を明らかにする資料です。（「横浜市美術資料収集方針」の4、「第1項から第3項に関連する資料」に該当します。）

*上記点数に寄託作品は含まれません。

令和3年度の主な収集作品

作家	作品名
山本直彰	立てる像(Ⅱ)
山本 貞	地の光景
吉田 博	ヴィクトリヤ メモリアル
三宅克己	水郷夏景
土谷 武	Portail Ⅲ
井上良斎(三代)	白磁千條文片耳花瓶
奈良原一高	〈無国籍地〉ほか 128点

*令和3年度の全収集作品については、「横浜美術館収蔵品目」(令和4年度発行予定)を参照ください。

保存・修復

分野	作家名	作品名	収蔵品番号	修復内容
日本画	望月玉泉	《芦辺遊鴨図》	86-JP-057	破損部分の補修
	鍋本清方	《遊女》	96-JP-001	剥離止め、シミ除去、波打ちの平滑化
	下村観山	《郭子儀》	2011-JP-003	シミ除去、皺のばし、新規裏打ち
		《老萊子》	2011-JP-005～008	シミ除去、皺のばし、新規裏打ち
		《羅漢》	2011-JP-011,012	シミ除去、皺のばし、新規裏打ち
		《十六羅漢 第二尊者 迦諾迦跋蹉》	2011-JP-016	シミ除去、皺のばし、新規裏打ち
		《十六羅漢 第五尊者 諾距羅》	2011-JP-018	シミ除去、皺のばし、新規裏打ち
		《出山釈迦》	2011-JP-020	シミ除去、皺のばし、新規裏打ち
		《歸去来 画稿》	2011-JP-032	シミ除去、皺のばし、新規裏打ち
		《丹霞 画稿》	2011-JP-034, 035	シミ除去、皺のばし、新規裏打ち
		《哲祖 画稿》	2011-JP-036	シミ除去、皺のばし、新規裏打ち
		《維摩 画稿》	2011-JP-037, 120,134	シミ除去、皺のばし、新規裏打ち
		《鳥窠禅師 画稿》	2011-JP-044, 118	シミ除去、皺のばし、新規裏打ち
		《維摩默然 画稿》	2011-JP-146	シミ除去、皺のばし、新規裏打ち
油彩その他 の絵画	高間惣七	《作品A 紫と緑》	88-OJ-056	クリーニング、剥離止め、木枠の新調
	村上義男	《蛾》	89-OJ-004	クリーニング、剥離止め、破れの補修、裏面覆い紙の除去
	篠原有司男	《ラブリー・ラブリー・アメリカ（ドリンク・モア）》	91-OJ-010	クリーニング、立体パーツ固定方法の改良
	岩田榮吉	《赤いベストの自画像》	2014-OJ-001	クリーニング、絵具剥離片の復元、欠損部の補彩、額装の改良
	北久美子	《日本鳥類絵図…T》	2020-OJ-003	クリーニング、補彩、額装の改良
版画	デヴィッド・ホックニー	《催眠術師》	84-PRF-001	クリーニング、古い台紙からの取り外し、額装の改良
		《フレンチ・スタイルの逆光》	84-PRF-002	額装の改良
		《事務椅子にすわるシリア》	84-PRF-003	額装の改良
		《テーブルのヘンリー》	84-PRF-004	額装の改良
	ロバート・ラウシェンバーク	《ケティ・ホーク》	84-PRF-007	古い台紙からの取り外し、新規裏板・台紙への固定、カバーアクリルの交換
		《凍てついたおとり(リトI)》	84-PRF-008	古い台紙からの取り外し、新規裏板・台紙への固定、カバーアクリルの交換
		《凍てついたおとり(リトII)》	84-PRF-009	古い台紙からの取り外し、新規裏板・台紙への固定、カバーアクリルの交換
		《5時29分ペイ・ショア発》	84-PRF-010	古い台紙からの取り外し、新規裏板・台紙への固定、カバーアクリルの交換
		《野性豚の群(エッチングIV)》	84-PRF-011	古い台紙からの取り外し、新規裏板・台紙への固定、カバーアクリルの交換
		《超高速飛行機》	84-PRF-012	古い台紙からの取り外し、新規裏板・台紙への固定、カバーアクリルの交換
	ピエール＝オーギュスト・ルノワール	《若い女性の胸像》	92-PRF-101	シミ除去、ヒンジの交換
	ジュアン・カルドーナ	《私は、まず自分の手紙を書いてしまうわ。それから清書をしましょう。》	2011-PRF-004	クリーニング、付着紙片の除去、めくれ・破れ補修
	アレクサンドル・リュノワ	《セビリアの女》	2011-PRF-020	クリーニング、付着紙片の除去、めくれ・破れ補修
	アルブレヒト・デューラー	《エジプトの聖家族(『聖母の生涯』より)》	2019-PRF-038	古い台紙からの取り外し、クリーニング
		《サテュロスの家族》	2019-PRF-039	クリーニング、シミ除去、ヒンジの交換
		《磔刑(連作「受難」より)》	2019-PRF-040	古い台紙からの取り外し、クリーニング

分野	作家名	作品名	収蔵品番号	修復内容
版画	フランシスコ・デ・ゴヤ・イ・ルシエンテス	《収監は犯罪と同様に野蛮である（囚人）》	2019-PRF-048	クリーニング、テープ除去
	レンブラント・ファン・レイン	《帽子とスカーフを着けた自画像（陰になった顔、胸像）》	2019-PRF-116	クリーニング、シミ除去、ヒンジの交換
		《サーベルを掲げるレンブラント》	2019-PRF-117	クリーニング、テープ除去
		《聖母の死》	2019-PRF-123	クリーニング、シミ除去
		《雲の中の聖母とキリスト》	2019-PRF-126	クリーニング、シミ除去、ヒンジの交換
水彩・素描	ジュゼペ・デ・リペーラ	《キリスト哀悼》	2019-PRF-133	古い台紙からの取り外し、クリーニング
	中島清之	《銀座》のためのスケッチ 計43点	2016-DRJ-022,	マット装
			024～026,	
			028～031,	
			033～048,	
	下村観山	《魔障（下図）》	050,051,	シミ除去、皺のばし、新規裏打ち、簡易卷子装
			053～055,	
			057～062,	
			064～068,	
彫刻・立体	平櫛田中	《陶淵明（帰去来）》	97-SJ-001	クリーニング、剥離止め、後補塗彩の除去
	ヴィクトル・ヴァザルリ	《トロニーⅡ》	88-SF-008	付着物の除去、補彩
写真・映像	中藤 敦	《石仏》	84-PHJ-339	古いマット装からの取り外し、テープ除去
		《静物》	84-PHJ-35C	古いマット装からの取り外し、テープ除去
		《石仏》	84-PHJ-35D	古いマット装からの取り外し、テープ除去
		《風景》	84-PHJ-35E	古いマット装からの取り外し、テープ除去
		《トルソ》	84-PHJ-35F	古いマット装からの取り外し、テープ除去
		《十一面観音》	84-PHJ-35H	古いマット装からの取り外し、テープ除去
	安藤不二夫	《鎬木清方》	88-PHJ-01E	古いパネルからの取り外し、テープ除去
		《風雪に(B)》	88-PHJ-013	古いパネルからの取り外し、テープ除去
	日下部金兵衛（推定）	《駕籠》	2018-PHJ-023	古いマット装からの取り外し、テープ除去
	中平卓馬	《奄美》 計6点	2010-PHJ-088	額装
			～093	
		《国境・吐喝喇列島》 計13点	2010-PHJ-094	額装
	石川竜一		～106	
		《無題「原点復帰一横浜」より》 計12点	2012-PHJ-001	額装
			～012	
		《portraits 2013-2016(渋谷、東京)》	2018-PHJ-007	額装
		《portraits 2013-2016(渋谷、東京)》	2018-PHJ-008	額装
		《portraits 2013-2016(大阪、大阪)》	2018-PHJ-009	額装
		《portraits 2013-2016(京橋、東京)》	2018-PHJ-010	額装
		《portraits 2013-2016(渋谷、東京)》	2018-PHJ-011	額装
		《portraits 2013-2016(宜野湾、沖縄)》	2018-PHJ-012	額装
		《portraits 2013-2016(あざみ野、神奈川)》	2018-PHJ-013	額装
	撮影者不詳	《portraits 2013-2016(難波、大阪)》	2018-PHJ-014	額装
		《portraits 2013-2016(渋谷、東京)》	2018-PHJ-015	額装
		《portraits 2013-2016(茅野、長野)》	2018-PHJ-016	額装
		《題名不詳》	2018-PH-025	古いマット装からの取り外し、テープ除去
		《清水寺、京都》	2018-PH-027	古いマット装からの取り外し、テープ除去

貸出

貸出件数・点数

貸出総件数：8件(うち海外1件)

貸出総作品数：55点

貸出実績

展覧会等名称・展示会場・会期	作家名	作品(資料)名・収蔵品番号
「Yoshitomo Nara」 ロサンゼルス・カウンティ美術館(アメリカ) 令和3年4月1日(木)～令和4年1月2日(日) ※新型コロナウイルス感染症拡大防止等のため会期が変更・延長	奈良美智	《春少女》(2013-OJ-002)
「烏合会結成120年記念 若き清方と仲間たち―浮世絵系画家の新時代―」 鎌倉市鍋木清方記念美術館 令和3年4月15日(木)～5月19日(水)	鰐崎英朋	《鎧権三重帷子》(2000-JP-007)
「トライアローグ 横浜美術館・愛知県美術館・富山県美術館 20世紀西洋美術コレクション」 愛知県美術館 令和3年4月23日(金)～6月27日(日) 富山県美術館 令和3年11月20日(土)～令和4年1月16日(日) ※ 令和2年度に横浜美術館で開催後、巡回	ハンス(ジャン)・アルプ	《瓶と巻き髭》(96-OF-001)
	アンディ・ウォーホル	《ムハメド・アリ》(95-PHF-014)
		《アーノルド・シュワルツネッガー》(95-PHF-015)
		《カレム・アブドウル・ジャバー》(95-PHF-016)
		《ヘンリー・ゲルツァーラー》(95-PHF-017)
		《デビー・ハリー》(95-PHF-018)
		《グレース・ジョーンズ》(95-PHF-019)
		《クリス・エバート》(95-PHF-02A)
		《シルベスター・スタローン》(95-PHF-02B)
		《キース・ヘリングとジュアン》(95-PHF-02C)
	マックス・エルンスト	《少女が見た湖の夢》(85-OF-002)
	メレット・オッペンハイム	《リス》(2003-SF-001)
	ナウム・ガボ	《空間の構造》(87-SF-001)
	ヴァシリイ・カンディンスキー	《網の中の赤》(83-OF-019)
	パウル・クレー	《攻撃の物質、精神、象徴》(83-DRF-008)
	ジョージ・グロツス	《エドガー・アラン・ポオに捧ぐ》(88-OF-005)
	ジョゼフ・コーネル	《オブジェクト ムツシュ・フォットの孫息子による 芝居ホテル、毎週日曜日午後》(86-SF-002)
		《ソーブ・バブル・セット：コペルニクスの体系》 (86-SF-003)
	クルト・シュヴィッターズ	《メルツ絵画1c 二重絵画》(88-OF-011)
	ジャスパー・ジョーンズ	《標的》(83-PRF-005)
	ジム・ダイン	《自画像：風景》(85-PRF-001)
	ウラジーミル・タトリン	《コーナー・反レリーフ》(88-SF-007)
	サルバドル・ダリ	《ガラスの測地学的肖像》(86-OF-001)
	イヴ・タンギー	《風のアルファベット》(85-OF-006)
	オットー・ディックス	《仔牛の頭部のある静物》(2004-OF-001)
	マルセル・デュシャン	《アネミック・シネマ》(美術情報センター所蔵)
	ポール・テルヴォー	《階段》(83-OF-009)
	マヤ・デレン&アレクサンダー・ハミッド	《午後の網目》(美術情報センター所蔵)
	リチャード・ハミルトン	《リリース(解放)》(85-PRF-014)
	パブロ・ピカソ	《ひじかけ椅子で眠る女》(88-OF-009)
	ジョルジュ・ブラック	《画架》(88-OF-001)
	コンスタンティン・ブランクーシ	《空間の鳥》(84-SF-001)
	フランシス・ベーコン	《座像》(83-OF-001)
	クリスチャン・ボルタンスキー	《シヤス高校の祭壇》(92-PHF-001)

貸出

展覧会等名称・展示会場・会期	作家名	作品(資料)名・収蔵品番号
(承前)	ルネ・マグリット	《王様の美術館》(88-OF-006)
	ロベルト・マッタ	《コンポジション》(85-OF-005)
	ガブリエーレ・ミュンター	《抽象的コンポジション》(89-OF-002)
	ジョアン・ミロ	《花と蝶》(88-OF-008)
	ロバート・ラウシェンバーグ	《キティ・ホーク》(84-PRF-007)
	ヴィフレド・ラム	《アダムとイヴ》(92-OF-002)
	ロイ・リキテンスタイン	《ピカソのある静物》(版画集『ピカソへのオマージュ』より) (85-PRF-016)
	マン・レイ	《ガラスの涙》(82-PHF-235)
		《メレット・オッペンハイム》(82-PHF-245)
		《贈物》(89-SF-004)
フェルナン・レジェ	《コンポジション》(88-OF-010)	
アレクサンドル・ロトチェンコ	《非具象彫刻》(94-SF-001)	
「イサム・ノグチ 発見の道」	イサム・ノグチ	《チャイニーズ・スリーブ#1》(88-SF-004)
東京都美術館 令和3年4月24日(土)-8月29日(日)		《下方へ引く力》(90-SF-004)
「開館30周年記念 物語る 遠藤彰子展」	遠藤彰子	《街(street)》(93-OJ-002)
平塚市美術館 令和3年10月2日(土)-12月12日(日)		
「ミロ展—日本を夢みて—」	ジョアン・ミロ	《花と蝶》(88-OF-008)
Bunkamura ザ・ミュージアム 令和4年2月11日(金祝)-4月17日(日)		
※ 令和4年度に愛知県美術館、富山県美術館に巡回予定		
「写真発祥地の原風景 幕末明治のはこだて」	エリファレット・ブラウン・ジュニア	《遠藤又左衛門と従者》(84-PHF-014) (レプリカ)
東京都写真美術館 令和4年3月2日(水)-5月8日(日)		
「没後50年 鎗木清方展」	鎗木清方	《春宵怨》(84-JP-007)
東京国立近代美術館 令和4年3月18日(金)-5月8日(日)		《遊女》(96-JP-001)
※ 令和4年度に京都国立近代美術館に巡回予定		

広報の活動、外部と連携した事業

広報

個別の展覧会や事業ごとの宣伝だけでなく、横浜市の芸術拠点としての「横浜美術館」の発信、芸術文化の振興のために、広報を重視し、戦略的に取り組んでいます。

私たちが目指している方向とそのための取組み、さまざまな活動の内容とその成果も含め、横浜美術館を支えていただいている市民やメディアそして社会との信頼と支援の関係性をより強固に形成してゆきたいと考えます。そのためにウェブサイトを中心に印刷物やメールニュース、ソーシャルメディアなど、さまざまな媒体を活用した迅速かつ計画的な発信に取り組んでいます。

また、横浜美術館を取り巻く社会の構造、また市民の生活行動や芸術文化に対するニーズなども今後大きく変化していきます。それらを分析、把握し、私たちの事業や管理運営活動に反映させ、展開していく必要があります。マーケティング戦略の再構築をすべく、取り組んでいます。

露出件数

新聞	美術雑誌・一般雑誌・FP	ウェブ	TV・ラジオ	その他	海外	合計
21	39	307	19	11	3	400

全館広報

ウェブサイト

アクセス数：1,054,624pv

(令和4年3月31日現在)

Twitter

フォロワー数：146,000

(令和4年3月31日現在)

メールニュース

登録者数：9,373人

(令和4年3月31日現在)

発行数：定期便12回、臨時便2回

◎ウェブを活用した全館広報

8月 「横浜[出前]美術館」ウェブサイト公開

9月 休館中事業プレスリリース発行

休館中特設ウェブサイト公開

休館中発信事業開始

・Twitter 収蔵作家誕生日

10月 休館中発信事業

① note 公式アカウント開始

・「横浜[出前]美術館」レポート

・職員インタビュー

・コレクション紹介「今月の1点」

② Twitter / Facebook

・横浜美術館クイズ

・休館中日記

・横浜美術館建築のヒミツ

神奈川新聞コレクション紹介連載

「アート彩時記」

開始日：1月23日(日)／毎月1回全13回



特設ウェブサイトバナー



休館中事業ロゴ



神奈川新聞連載口絵(画：蔵屋美香)



note, Twitter, Facebook ページバナー

外部と連携した事業

文化芸術創造都市「横浜」の中心的な施設として、横浜市の都市戦略である創造都市形成や、シティ・セールス、観光プロモーションと連携した事業を展開しています。また、横浜市芸術文化振興財団は、横浜みなとみらいホール、横浜能楽堂、横浜にぎわい座、横浜赤レンガ倉庫1号館などを管理運営しています。それぞれに専門分野がありますが、社会課題への対応や子どもへの取組みなどの共通の課題については、横断的な検討体制により連携して実施します。

都市戦略との連携

【横浜みなとみらい21】新たな魅力発見！オンラインツアー

主催：一般社団法人横浜みなとみらい21
協力事業実施：株式会社エイチ・アイ・エス

第1弾

日時：9月18日(土) 14:00～14:50
ご案内：五十嵐誠一
岡あや乃(帆船日本丸 二等航海士)
参加人数：304人

第2弾

日時：10月23日(土) 14:00～14:50
ご案内：柏木智雄
小野晋司(横浜赤レンガ倉庫1号館館長)
参加人数：243人

第3弾

日時：12月4日(土) 14:00～14:50
ご案内：佐野麻季(三菱みなとみらい技術館)
山崎 優
参加人数：102人

第4弾

台湾旅行会社、プレス向け
オンラインセミナー
日時：3月10日(木) 13:00～14:30
参加人数：11社15人



オンラインツアー第1弾



オンラインツアー第2弾



オンラインツアー第3弾

Heart to Art(企業向け芸術支援プログラム)

Heart to Artは、企業からの支援により美術の普及活動や市民へのサービスを充実させるプログラムです。企業と美術館がそれぞれのノウハウを活かすことにより幅広い展開を目指しています。

参加企業：3社
NTTテクノクロス株式会社／株式会社野村総合研究所／横浜信用金庫

参加企業との取り組み

アウトリーチ
* 地域社会や市民生活に貢献する事業 アウトリーチ事業等 参照(p.24)

共同制作
コレクション鑑賞アプリ「みるみるアート きみはだれ？」
期間：3月14日(月)～令和5年3月31日(金)
担当：襟川文恵、南島 興、森 未祈
開発特別協力：株式会社野村総合研究所
監修：横浜美術館
形式：ウェブ・アプリケーション
料金：無料



コレクション鑑賞アプリ



コレクション鑑賞アプリ



コレクション鑑賞アプリ

来館者へのおもてなし



オンラインショップ取り扱い商品



オリジナルポストカード



アンドレ・マッソンのブローチペンダント

ミュージアムショップとカフェ

ミュージアムショップでは、横浜美術館のコレクションをデザインしたオリジナルグッズや企画展関連グッズをはじめ、過去の展覧会図録や、美術に親しむための書籍類、ポストカードやステーションナリーなどの身近な商品を取り揃えています。

休館中の令和3年度は、オンラインショップでの販売を行い、ショップ・カフェの改修後の方針等について、検討を行いました。

オンラインショップ

約170点の商品を掲載。

国際的な交流・発信

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、2020年2月以降、海外からの招聘・来館、海外への出張は無し

国際シンポジウム

IEO アニュアル・ミーティング

オンライン

5月26日(水)~28日(金)

参加者: 帆足亜紀

CIMAM アニュアル・ミーティング(ポーランド)

オンライン

11月5日(金)~7日(日)

参加者: 蔵屋美香, 帆足亜紀, 木村絵理子

IBA 理事会・総会

オンライン

12月16日(木)・17日(金)

参加者: 帆足亜紀

資料

入館者数・収支

◎入館者数

経年推移

平成元年度	1,127,386人	平成12年度	1,082,553人	平成23年度	459,716人
平成2年度	990,818人	平成13年度	862,895人	平成24年度	662,159人
平成3年度	555,276人	平成14年度	372,395人	平成25年度	1,058,689人
平成4年度	541,465人	平成15年度	780,928人	平成26年度	529,748人
平成5年度	1,327,380人	平成16年度	331,873人	平成27年度	533,750人
平成6年度	528,995人	平成17年度	1,527,694人	平成28年度	584,725人
平成7年度	989,037人	平成18年度	341,657人	平成29年度	451,228人
平成8年度	344,239人	平成19年度	413,410人	平成30年度	964,192人
平成9年度	942,509人	平成20年度	770,310人	令和1年度	816,828人
平成10年度	278,954人	平成21年度	540,047人	令和2年度	206,626人
平成11年度	792,905人	平成22年度	1,408,713人	令和3年度	3,514人

(令和4年3月31日現在)

令和3年度度事業別

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
鑑賞サポート	0	8	20	35	0	4	0	56	99	0	49	124	395
子どものアトリエ	0	0	0	0	0	0	0	65	0	6	24	41	136
市民のアトリエ	0	0	0	0	0	0	0	10	12	19	45	31	117
市民協働、地域社会や市民生活に貢献する事業	0	0	0	64	32	31	215	266	423	262	756	153	2,202
広報の活動、外部と連携した事業	0	0	0	0	0	304	243	0	102	0	0	15	664
合計	0	8	20	99	32	339	458	397	636	287	364	364	3,514

◎収支

収入

指定管理料	1,035,599,990
利用料金収入	282,000
自主事業収入	1,365,044
雑入	21,454,660
合計	1,058,701,694

支出

人件費	318,092,147
事務費	7,217,898
事業費	79,066,208
大規模改修事業費	335,599,990
管理費	105,746,160
公租公課	44,096,645
事務経費	83,777,645
合計	973,596,693

公益財団法人横浜市芸術文化振興財団役員

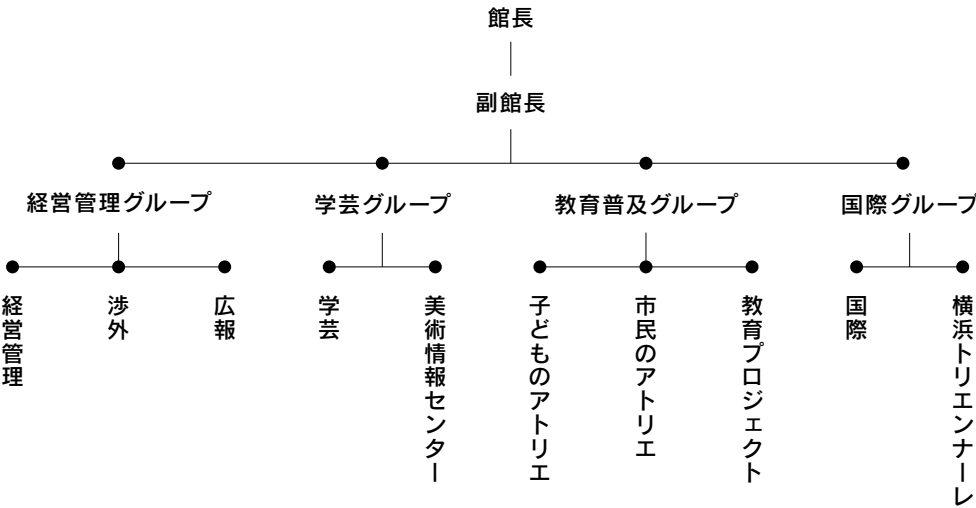
理事長	近藤誠一	元文化庁長官(代表理事)
専務理事	恵良隆二	(代表理事)
理事	松本貴行	事務局長(業務執行理事)
	藤崎信裕	経営企画室長(業務執行理事)
	杉浦正美	総務グループ長(業務執行理事)
	蔵屋美香	横浜美術館 館長(業務執行理事)
	西澤 洋	横浜みなとみらいホール 総支配人(業務執行理事)
	小野晋司	横浜赤レンガ倉庫1号館 館長(業務執行理事)
	近澤弘明	株式会社近澤レース店 代表取締役社長
	柄 博子	独立行政法人国際交流基金 理事
	久野敦子	公益財団法人セゾン文化財団 常務理事 兼 プログラム・ディレクター
監事	齋藤貴司	税理士／ベイ・タックス税理士法人 代表社員
	只腰親和	横浜市立大学 名誉教授

公益財団法人横浜市芸術文化振興財団評議員

秋岡 陽	フェリス女学院大学 名誉教授／学校法人フェリス女学院 理事
上野 孝	横浜商工会議所 会頭／上野トランステック株式会社 代表取締役会長
柏崎 誠	横浜市信用保証協会 会長
熊谷典和	株式会社テレビ神奈川 代表取締役社長
神部 浩	横浜市文化観光局 局長
須藤浩之	株式会社神奈川新聞社 代表取締役社長
福山浩一郎	日本放送協会横浜放送局 局長

(令和4年3月31日現在)

横浜美術館組織図



職員名簿

館長			蔵屋美香		
副館長			五十嵐誠一		
副館長・主席学芸員			柏木智雄		
経営管理グループ	経営管理	経営管理グループ長	大崎敬一		
		チームリーダー	福田 寛		
		チームリーダー	藤井聡子		
		チームリーダー	吉川由紀子		
		担当リーダー	足立陽子		
		担当リーダー	襟川文恵		
		担当リーダー	普川由貴子		
			一色あずさ		
			稲葉正子		
			梅澤のど佳		
			川邊 萌		
			小屋有紀子		
			坂口周平		
			南條美紀		
			長谷川鷹丞		
学芸グループ	学芸	学芸グループ長・主席学芸員	松永真太郎		
		チームリーダー・主任学芸員	内山淳子		
		チームリーダー・主任学芸員	木村絵理子		
		チームリーダー	庄司尚子		
		担当リーダー・主任学芸員	片多祐子		
		主任学芸員	中村尚明		
		主任学芸員	八柳サエ		
		学芸員	大澤紗蓉子		
		学芸員	金井真悠子		
		学芸員	坂本恭子		
		学芸員	長谷川珠緒		
		学芸員	日比野民蓉		
		学芸員	南島 興		
		レジストラー	相原佳奈子		
			大沢知二		
			長谷川菜穂		
			美術情報センター	司書	長谷川菜穂
		教育普及グループ		教育普及グループ長・主席エディケーター	山崎 優
子どものアトリエ	チームリーダー・主任エディケーター		柳川文秀		
	担当リーダー・主任エディケーター		園田泰士		
	創作・造形エディケーター		太田雅子		
市民のアトリエ	チームリーダー・主任エディケーター		木下貴博		
	担当リーダー・主任エディケーター		桜庭瑠実		
	創作・造形エディケーター		森 未祈		
教育プロジェクト	チームリーダー・主任エディケーター／主任学芸員		端山聡子		
	鑑賞教育エディケーター・学芸員		北川裕介		
	鑑賞教育エディケーター・学芸員	古藤 陽			
国際グループ	国際	国際グループ長・学芸グループ長(兼務)	帆足亜紀		
	横浜トリエンナーレ	チームリーダー	福岡綾子		
			山崎真弓		
			山本紀子		

48名（令和4年3月31日現在）

*同職名の場合は、五十音順

条例・施行規則

横浜美術館条例

昭和63年9月24日
条例第44号

横浜美術館条例をここに公布する。
横浜美術館条例

(設置)

第1条 美術文化の振興と市民の美術に関する学習、創作活動等に寄与するため、横浜美術館(以下「美術館」という。)を横浜市西区に設置する。
(平元条例39・平10条例25・一部改正)

(事業)

第2条 美術館は、次の事業を行う。
(1) 美術品及び美術に関する資料(以下「美術品等」という。)の保管、調査研究、展示及び利用に関すること。
(2) 美術に関する情報の収集及び提供に関すること。
(3) 美術に関する調査及び研究に関すること。
(4) 美術に関する市民の創作活動等の指導及び助言に関すること。
(5) 美術に関する講演会、講習会、講座等の開催に関すること。
(6) 前各号の事業のための施設及び設備の提供に関すること。
(7) その他美術館の設置の目的を達成するために必要な事業

(施設)

第3条 前条に掲げる事業を行うため、美術館に次の施設を置く。
(1) 常設展示室、美術情報室、美術図書室及びグランドギャラリー
(2) 企画展示室、アトリエ及びレクチャーホール
(3) 駐車場
(平23条例23・一部改正)

(開館時間等)

第4条 美術館の開館時間及び休館日は、規則で定める。

(指定管理者の指定等)

第5条 次に掲げる美術館の管理に関する業務は、地方自治法(昭和22年法律第67号)第244条の2第3項の規定により、指定管理者(同項に規定する指定管理者をいう。以下同じ。)に行わせるものとする。
(1) 美術館の施設の利用の許可等に関すること。
(2) 特別利用(第9条第1項に規定する特別利用をいう。)の許可等に関すること。
(3) 第2条に規定する事業の実施に関すること。
(4) 美術館の施設及び設備の維持管理に関すること。
(5) その他市長が定める業務
2 指定管理者は、横浜市の文化芸術の振興及び普及に関する施策の方針を理解し、美術に関する高度な専門的知識を有するとともに、美術品等の保管、調査研究及び展示、美術に関する講座等の開催その他美術文化の振興を図るための事業を自ら企画し、及び実施し、並びに市民による美術に関する学習、創作活動等に対する支援を行うものでなければならない。
3 指定管理者の指定を受けようとするものは、事業計画書その他規則で定める書類を市長に提出しなければならない。
4 市長は、前項の規定により提出された書類を審査し、かつ、実績等を考慮して、美術館の設置の目的を最も効果的に達成することができるものと認めたものを指定管理者として指定する。
5 市長は、指定管理者の候補者を選定しようとするときは、特別の事情があると認める場合を除き、第15条第1項に規定する横浜美術館指定管理者選定評価委員会(以下「選定評価委員会」という。)の意見を聴かなければならない。
(平17条例69・追加、平23条例48・一部改正)

(指定管理者の指定等の公告)

第6条 市長は、指定管理者の指定をしたとき、及びその指定を取り消したときは、遅滞なく、その旨を公告しなければならない。
(平17条例69・追加)

(管理の業務の評価)

第7条 指定管理者は、市長が特別の事情があると認める場合を除き、その指定の期間において、第5条第1項各号に掲げる美術館の管理に関する業務について、選定評価委員会の評価を受けなければならない。
(平23条例48・追加)

(利用の許可)

第8条 第3条第2号に掲げる施設を利用しようとする者は、指定管理者の許可を受けなければならない。
2 指定管理者は、前項の許可に美術館の管理上必要な条件を付けることができる。
3 指定管理者は、美術館の施設の利用が次のいずれかに該当する場合は、利用を許可しないものとする。
(1) 美術館における秩序を乱し、又は公益を害するおそれがあるとき。
(2) 美術館の設置の目的に反するとき。
(3) 美術館の管理上支障があるとき。
(4) その他指定管理者が必要と認めたとき。
4 第1項の許可の手続について必要な事項は、規則で定める。
(平10条例17・一部改正、平17条例69・旧第5条線下・一部改正、平23条例48・旧第7条線下)

(美術品等の特別利用の許可)

第9条 美術館に保管され、又は展示されている美術品等について、学術研究等のため、撮影、模写、模造、熟覧等(以下「特別利用」という。)をしようとする者は、指定管理者の許可を受けなければならない。
2 指定管理者は、前項の許可に美術品等の保全上及び美術館の管理上必要な条件を付けることができる。
3 指定管理者は、特別利用が次のいずれかに該当する場合は、特別利用を許可しないものとする。
(1) 美術品等の保全上支障があるとき。
(2) 美術館の管理上支障があるとき。
(3) 美術館における秩序を乱し、又は公益を害するおそれがあるとき。
(4) その他指定管理者が必要と認めたとき。
4 第1項の許可の手続について必要な事項は、規則で定める。
(平17条例69・旧第6条線下・一部改正、平23条例48・旧第8条線下)

(利用料金)

第10条 常設展示室において、展示されている美術品等を観覧しようとする者は、指定管理者に対し、その利用に係る料金(以下「利用料金」という。)を支払わなければならない。
2 美術情報室において、美術情報機器を利用しようとする者は、指定管理者に対し、利用料金を支払わなければならない。
3 レクチャーホールの利用について、第8条第1項の規定による許可を受けた者は、指定管理者に対し、利用料金を支払わなければならない。
4 特別利用について、前条第1項の規定による許可を受けた者は、指定管理者に対し、利用料金を支払わなければならない。
5 駐車場を利用する者は、指定管理者に対し、利用料金を支払わなければならない。
6 第1項の利用料金にあつては別表第1に定める額の範囲内において、第2項の利用料金にあつては別表第2に定める額の範囲内において、第3項の利用料金にあつては別表第3に定める額の範囲内において、第4項の利用料金にあつては1点につき1回又は1日ごとに3,000円の範囲内において、前項の利用料金にあつては別表第4に定める額の範

条例・施行規則

区内において、指定管理者が市長の承認を得て定めるものとする。
 7 第1項から第4項までの利用料金は、前納とする。ただし、必要があると認められる場合又は規則で定める場合は、指定管理者は、後納とすることができる。
 8 第5項の利用料金は、後納とする。
 (平10条例17・全改、平17条例69・旧第7条繰下・一部改正、平23条例23・一部改正、平23条例48・旧第9条繰下・一部改正)

(利用料金の減免)

第11条 指定管理者は、必要があると認められる場合又は規則で定める場合は、利用料金の全部又は一部を免除することができる。
 (平10条例17・全改、平17条例69・旧第8条繰下・一部改正、平23条例48・旧第10条繰下)

(利用料金の不返還)

第12条 既納の利用料金は、返還しない。ただし、必要があると認められる場合又は規則で定める場合は、指定管理者は、その全部又は一部を返還することができる。
 (平10条例17・全改、平17条例69・旧第9条繰下・一部改正、平23条例48・旧第11条繰下)

(許可の取消し等)

第13条 指定管理者は、第8条第1項及び第9条第1項の規定により許可を受けた者が次のいずれかに該当する場合は、当該許可を取り消し、又は施設の利用若しくは特別利用を制限し、若しくは停止させることができる。
 (1) 第8条第3項各号又は第9条第3項各号のいずれかに該当するに至ったとき。
 (2) この条例若しくはこの条例に基づく規則の規定又はこれらに基づく指定管理者の処分に違反したとき。
 (3) この条例に基づく許可の条件に違反したとき。
 (平10条例17・一部改正、平17条例69・旧第10条繰下・一部改正、平23条例48・旧第12条繰下・一部改正)

(入館の制限)

第14条 指定管理者は、美術館の入館者が次のいずれかに該当する場合は、入館を拒み、又は退館を命ずることができる。
 (1) 他の入館者に迷惑をかけ、又は迷惑をかけるおそれがあるとき。
 (2) その他美術館の管理上支障があるとき。
 (平17条例69・旧第11条繰下・一部改正、平23条例48・旧第13条繰下)

(横浜美術館指定管理者選定評価委員会)

第15条 指定管理者の候補者の選定、指定管理者による美術館の管理の業務に係る評価等について調査審議するため、横浜美術館指定管理者選定評価委員会を置く。
 2 選定評価委員会は、市長が任命する委員10人以内をもって組織する。
 3 前項に定めるもののほか、選定評価委員会の組織及び運営に関し必要な事項は、市長が定める。
 (平23条例48・追加)

(委任)

第16条 この条例に定めるもののほか、この条例の施行に関し必要な事項は、規則で定める。
 (平17条例69・旧第13条繰下、平23条例48・旧第14条繰下)

附則

この条例は、規則で定める日から施行する。
 (平成元年10月規則第96号により同年11月3日から施行)
 附則(平成元年9月条例第39号)
 この条例は、横浜美術館条例の施行の日から施行する。

附則(平成10年3月条例第17号) 抄
 (施行期日)
 1 この条例は、平成10年4月1日から施行する。
 (経過措置)
 2 この条例の施行の際既にこの条例による改正前のそれぞれの条例の規定に基づき施設の使用の申請を行っている者に係る当該施設の料金の納付等に関し必要な事項は、市長又は教育委員会が定める。

附則(平成13年2月条例第7号)
 この条例は、平成13年4月1日から施行する。

附則(平成14年2月条例第5号) 抄
 この条例は、平成14年4月1日から施行する。

附則(平成17年6月条例第69号)
 (施行期日)
 1 この条例は、公布の日から施行する。
 (経過措置)
 2 この条例の施行の際現にこの条例による改正前の横浜美術館条例第12条の規定によりその管理に関する事務を委託している横浜美術館については、地方自治法の一部を改正する法律(平成15年法律第81号)附則第2条に規定する日までの間は、なお従前の例による。

附則(平成19年2月条例第6号)
 この条例は、平成19年4月1日から施行する。

附則(平成23年3月条例第23号)
 この条例は、平成23年4月1日から施行する。

附則(平成23年12月条例第48号)
 (施行期日)
 1 この条例は、平成24年4月1日から施行する。
 (経過措置)
 2 この条例の施行の際現にこの条例による改正前のそれぞれの条例の規定に基づき公の施設の管理に関する業務を行っている指定管理者が、その指定の期間においてこの条例の施行の日前までにこの条例による改正後のそれぞれの条例の規定による当該業務についての評価に相当する評価を受けている場合にあっては、当該期間においては当該業務についての評価に係るこれらの規定は適用しない。

附則(平成28年2月条例第4号)
 この条例は、平成28年4月1日から施行する。

別表第1(第10条第6項)

(平10条例17・平13条例7・平17条例69・平19条例6・平23条例23・平23条例48・平28条例4・一部改正)

区分	単位	利用料金	
		個人	団体(20人以上)
一般		500円	400円
大学生・高校生	1人1回につき	300円	240円
中学生・小学生		100円	80円

(備考)

- 1 「一般」とは、「大学生・高校生」、「中学生・小学生」及び小学校(義務教育学校の前期課程、特別支援学校の小学部及びこれらに準ずるものを含む。)に就学するまでの者以外の者をいう。
- 2 「大学生・高校生」とは、大学、短期大学、高等専門学校、高等学校、中等教育学校の後期課程、特別支援学校の高等部、専修学校若しくは各種学校に在学する学生若しくは生徒又はこれらに準ずる者をいう。
- 3 「中学生・小学生」とは、中学校、中等教育学校の前期課程、義務教育学校、小学校若しくは特別支援学校の中学部若しくは小学部に在学する生徒若しくは児童又はこれらに準ずる者をいう。
- 4 小学校(義務教育学校の前期課程、特別支援学校の小学部及びこれらに準ずるものを含む。)に就学するまでの者は、無料とする。

別表第2(第10条第6項)

(平10条例17・平17条例69・平23条例23・平23条例48・一部改正)

区分	単位	利用料金
ピアノ学習システムブース	1回につき	100円
名画鑑賞システムブース		100円

別表第3(第10条第6項)

(平10条例17・全改、平17条例69・平23条例23・平23条例48・一部改正)

区分	単位	利用料金	
		平日	20,000円
レクチャーホール	1日につき	日曜日、土曜日及び休日	24,000円
附帯設備	1式、1台又は1枚、1日につき	150,000円	

(備考)

- 1 「1日」とは、午前10時から午後9時までをいう。
- 2 「平日」とは日曜日、土曜日及び休日以外の日をいい、「休日」とは国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)第3条に規定する休日をいう。
- 3 レクチャーホール及び附帯設備の利用が、午前10時から午後9時までの時間以外の時間(以下「時間外」という。)にわたった場合の当該時間外に係る利用料金の額は、時間外における利用1時間につき、レクチャーホール及び利用する当該附帯設備の1日の利用料金の額にそれぞれ8分の1を乗じて得た額を合算して得た額とする。この場合において、時間外における利用時間が1時間未満のとき、又はこれに1時間未満の端数があるときは、その時間又は端数時間を1時間として計算する。

別表第4(第10条第6項)

(平23条例23・追加、平23条例48・一部改正)

区分	単位	利用料金
大型車	1台、30分につき	500円
その他のもの	1台、1時間30分まで	500円
	利用時間が1時間30分を超えるときは、超過時間30分までごとに250円を加算する。	

条例・施行規則

横浜美術館条例施行規則

平成元年10月25日
規則第97号

横浜美術館条例施行規則をここに公布する。

横浜美術館条例施行規則

（趣旨）

第1条 この規則は、横浜美術館条例(昭和63年9月横浜市条例第44号。以下「条例」という。)の施行に関し必要な事項を定めるものとする。

（開館時間）

第2条 横浜美術館(以下「美術館」という。)の開館時間は、次のとおりとする。

- (1) 常設展示室、美術情報室、美術図書室、グランドギャラリー、企画展示室及びアトリエ 午前10時から午後6時まで
- (2) レクチャーホール 午前10時から午後9時まで
- (3) 駐車場 午前10時から午後9時まで(大型車にあつては、午前10時から午後6時まで)

2 市長は、前項の規定にかかわらず、特に必要があると認める場合は、開館時間を変更することができる。

(平23規則22・一部改正)

（休館日）

第3条 美術館の休館日は、次のとおりとする。

- (1) 木曜日。ただし、その日が、国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)第3条に規定する休日(以下「休日」という。)に当たるときはその翌日とし、当該翌日が休日に当たるときは日曜日、土曜日及び休日のいずれにも当たらない直近の日とする。
- (2) 1月1日から1月3日まで及び12月29日から12月31日まで

2 市長は、前項の規定にかかわらず、特に必要があると認める場合は、休館日に開館し、又は休館日以外の日に開館しないことができる。

(平14規則32・一部改正)

（指定申請書の提出等）

第4条 指定管理者の指定を受けようとするものは、指定申請書(第1号様式)を市長に提出しなければならない。

2 前項の申請書には、条例第5条第3項に規定する事業計画書及び次に掲げる書類を添付しなければならない。

- (1) 定款、寄附行為、規約その他これらに類する書類
- (2) 法人にあつては、当該法人の登記事項証明書
- (3) 前項の申請書を提出する日の属する事業年度の収支予算書及び事業計画書並びに前事業年度及び前々事業年度の収支計算書及び事業報告書
- (4) 美術館の管理に関する業務の収支予算書
- (5) その他市長が必要と認める書類

(平17規則89・追加、平19規則47・一部改正)

（施設の利用許可申請等）

第5条 条例第8条第1項の規定により美術館の施設の利用の許可を受けようとする者は、利用許可申請書(第2号様式)を指定管理者に提出しなければならない。

2 指定管理者は、企画展示室及びアトリエについては、指定管理者と共催して美術館の設置目的に合致する事業を行うため当該施設を利用しようとする団体に対し、利用を許可するものとする。

(平10規則42・平14規則32・一部改正、平17規則89・旧第4条繰下・一部改正、平24規則16・一部改正)

（申請の受付）

第6条 前条第1項の申請の受付は利用日の3箇月前の日の属する月の初日から行うものとし、受付時間は午前10時から午後5時までとする。ただし、

指定管理者が主催し、又は共催して利用する場合は、この限りでない。

(平10規則42・平14規則32・一部改正、平17規則89・旧第5条繰下・一部改正)

（特別利用の許可申請）

第7条 条例第9条第1項の規定により特別利用の許可を受けようとする者は、特別利用許可申請書(第3号様式)を指定管理者に提出しなければならない。

(平10規則42・一部改正、平17規則89・旧第6条繰下・一部改正、平24規則16・一部改正)

（申請の受付）

第8条 前条の申請は特別利用をしようとする日の7日前までに行わなければならないものとし、受付時間は午前10時から午後5時までとする。

(平10規則42・一部改正、平17規則89・旧第7条繰下)

（観覧券の発行）

第9条 指定管理者は、常設展示室において展示されている美術品及び美術に関する資料を観覧しようとする者に対し、観覧券を発行するものとする。

2 前項に規定する観覧券は、利用料金と引換えに交付する。

(平10規則42・平14規則32・一部改正、平17規則89・旧第8条繰下・一部改正)

（美術情報機器の利用）

第10条 条例第10条第2項に規定する美術情報機器を利用しようとする者は、美術情報機器に備付けの料金受入機により利用料金を納付しなければならない。

(平10規則42・一部改正、平17規則89・旧第9条繰下・一部改正、平24規則16・一部改正)

（利用料金の後納）

第11条 条例第10条第7項ただし書に規定する規則で定める場合は、国又は地方公共団体が利用する場合とする。

(平10規則42・旧第11条繰上・一部改正、平17規則89・旧第10条繰下・一部改正、平23規則22・平24規則16・一部改正)

（利用料金の減免）

第12条 条例第11条に規定する規則で定める場合は次の各号に掲げるとおりとし、免除する利用料金の額は当該各号に定めるとおりとする。この場合において、その額に10円未満の端数があるときは、その端数金額を切り捨てる。

- (1) 教職員に引率された横浜市内の小学校(特別支援学校の小学部を含む。)(若しくは中学校(中等教育学校の前期課程及び特別支援学校の中学部を含む。))の児童若しくは生徒又は各種学校の小学校若しくは中学校に相当する課程に在学する者の団体及びそれらの引率者が、教育上の目的から常設展示室において展示されている美術品及び美術に関する資料の観覧(以下「常設展の観覧」という。))をする場合 利用料金の全額
- (2) 土曜日に、小学校(特別支援学校の小学部を含む。)、中学校(中等教育学校の前期課程及び特別支援学校の中学部を含む。)(若しくは高等学校(中等教育学校の後期課程及び特別支援学校の高等部を含む。))の児童若しくは生徒、高等専門学校、専修学校若しくは各種学校の小学校、中学校若しくは高等学校に相当する課程に在学する者又はこれらに準ずると認められる者が、常設展の観覧をする場合 利用料金の全額
- (3) 教職員に引率された横浜市内の高等学校(中等教育学校の後期課程及び特別支援学校の高等部を含む。))の生徒又は高等専門学校、

専修学校若しくは各種学校の高等学校に相当する課程に在学する者の団体及びそれらの引率者が教育上の目的から常設展の観覧をする場合 利用料金の半額

- (4) 身体障害者福祉法（昭和24年法律第283号）第15条第4項の規定により身体障害者手帳の交付を受けている者、児童福祉法（昭和22年法律第164号）第12条第1項に規定する児童相談所若しくは知的障害者福祉法（昭和35年法律第37号）第12条第1項に規定する知的障害者更生相談所において知的障害との判定を受けた者又は精神保健及び精神障害者福祉に関する法律（昭和25年法律第123号）第45条第2項の規定により精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている者及びこれらの者の介護者が、常設展の観覧をする場合 利用料金の全額
- (5) 国又は地方公共団体がレクチャーホールを利用する場合 利用料金の全額
- （平7規則45・平8規則20・一部改正、平10規則42・旧第12条繰上・一部改正、平11規則28・平13規則36・平17規則31・一部改正、平17規則89・旧第11条繰下・一部改正、平19規則47・平24規則16・一部改正）

（利用料金の返還）

第13条 条例第12条ただし書に規定する規則で定める場合は次の各号に掲げるとおりとし、返還する利用料金の額は当該各号に定めるとおりとする。

- (1) 常設展の観覧、美術情報機器及びレクチャーホールの利用並びに美術品及び美術に関する資料の特別利用について、観覧、利用及び特別利用をする者の責めに帰することができない事由によりこれらの行為ができなくなった場合 既納の利用料金の全額
- (2) レクチャーホールの利用の許可を受けた者が利用日の30日前までに利用の許可の取消しを申し出た場合 既納の利用料金の全額
- (3) 特別利用の許可を受けた者が利用日の前日までに特別利用の許可の取消しを申し出た場合 既納の利用料金の全額
- （平10規則42・追加、平17規則89・旧第12条繰下・一部改正、平24規則16・一部改正）

（委任）

第14条 この規則の施行に関し必要な事項は、文化観光局長が定める。

（平10規則42・旧第14条繰上、平17規則89・旧第13条繰下・一部改正、平18規則84・平22規則29・平23規則22・一部改正）

附則

この規則は、平成元年11月3日から施行する。

附則（平成4年9月規則第88号）

この規則は、平成4年9月12日から施行する。

附則（平成6年3月規則第41号）抄

（施行期日）

- 1 この規則は、平成6年4月1日から施行する。

（経過措置）

- 3 この規則の施行の際現にこの規則による改正前の（中略）規定により作成されている様式書類は、この規則の施行の日から1年間は、適宜修正の上使用することができる。

附則（平成7年3月規則第45号）

この規則は、平成7年4月1日から施行する。

附則（平成8年3月規則第20号）

この規則は、平成8年4月1日から施行する。

附則（平成10年3月規則第42号）

（施行期日）

- 1 この規則は、平成10年4月1日から施行する。

（経過措置）

- 2 この規則による改正後のそれぞれの規則の規定は、この規則の施行の日以後の申請に係る料金の減免及び返還について適用し、同日前の申請に係る料金の減免及び返還については、なお従前の例による。

- 3 この規則の施行の際現にこの規則による改正前のそれぞれの規則の規定により作成されている様式書類は、なお当分の間、適宜修正の上使用することができる。

- 4 前2項に定めるもののほか、この規則の施行について必要な事項は、市長が定める。

附則（平成11年3月規則第28号）抄

（施行期日）

- 1 この規則は、平成11年4月1日から施行する。

附則（平成13年3月規則第36号）抄

（施行期日）

- 1 この規則は、平成13年4月1日から施行する。

附則（平成14年3月規則第32号）

この規則は、平成14年4月1日から施行する。

附則（平成17年3月規則第31号）

この規則は、平成17年4月1日から施行する。

附則（平成17年6月規則第89号）

この規則は、公布の日から施行する。

附則（平成18年3月規則第84号）抄

（施行期日）

- 1 この規則は、平成18年4月1日から施行する。

（経過措置）

- 5 この規則の施行の際現に決裁処理の過程にある事案の処理については、なお従前の例による。

附則（平成19年3月規則第47号）

この規則は、平成19年4月1日から施行する。

附則（平成22年3月規則第29号）抄

（施行期日）

- 1 この規則は、平成22年4月1日から施行する。

（経過措置）

- 6 この規則の施行の際現に決裁処理の過程にある事案の処理については、なお従前の例による。

附則（平成23年3月規則第22号）

この規則は、平成23年4月1日から施行する。ただし、第14条の改正規定は、平成23年5月1日から施行する。

附則（平成24年3月規則第16号）

この規則は、平成24年4月1日から施行する。

附則（平成28年3月規則第23号）

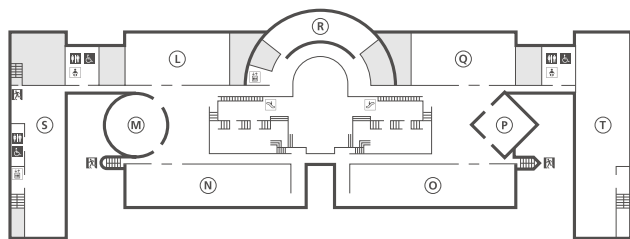
この規則は、平成28年4月1日から施行する。

第1号様式（第4条第1項）

（平17規則89・追加、平19規則47・一部改正）

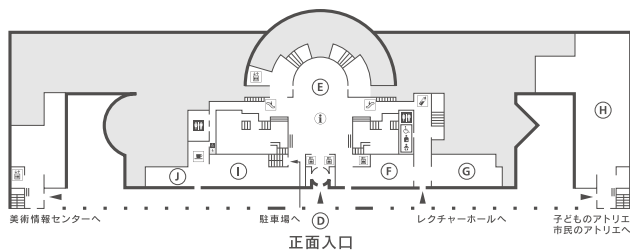
※ 様式省略

3F



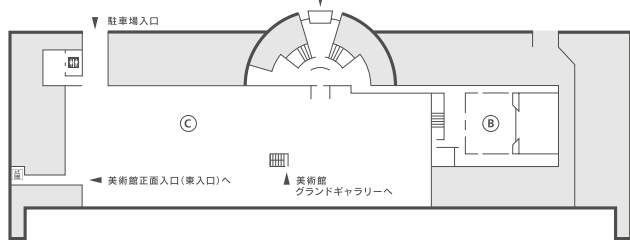
- ①-② 展示室
- ③ 美術情報センター
- ④ 市民のアトリエ

2F



- ⑤ 正面入口
- ⑥ グランドギャラリー
- ⑦ アートギャラリー2
- ⑧ アートギャラリー1
- ⑨ 子どものアトリエ
- ⑩ ミュージアムショップ
- ⑪ カフェ

1F



- ⑫ 西入口
- ⑬ レクチャーホール
- ⑭ 駐車場

建築概要

敷地面積 19,803m²
 建築面積 9,621m²
 延床面積 26,829m²
 構造 鉄骨鉄筋コンクリート造8階建(一部3階建)
 外装 花崗岩張り、アルミ成型板張り、軽量コンクリート金ゴテ押さえ、断熱セメントブロック敷込み、金属成型板張り
 内装 岩綿吸音板、プラスターボード、フレキシブルボード、金属成型パネル、花崗岩張り、フローリング板張り
 設計 丹下健三・都市・建築設計研究所
 監理 横浜市建築局、丹下健三・都市・建築設計研究所
 施工 建築工事:JV(竹中工務店、清水建設、奥村組、東急建設、佐藤工業、奈良建設ほか計18社)

休館日

木曜日(祝日を除く)、木曜日に祝日開館した場合はその翌日、年末年始。

開館時間

展覧会: 10:00~18:00(入館は17:30まで)
 美術情報センター: 10:00~18:00(入室および各種利用受付は17:30まで)
 * 次の施設は利用時間が異なります。
 ミュージアムショップ: 11:00~18:00
 Café小倉山: 10:45~18:00(ラストオーダー17:30)
 駐車場: 10:00~21:00/収容台数: 169台
 有料(最初の90分500円、以降30分毎に250円)

観覧料

コレクション展: 一般	500 (400) 円
大学・高校生	300 (240) 円
中学生	100 (80) 円
小学生以下無料	
企画展:	展覧会ごとに異なる
() 内は有料20名以上の団体料金(要事前申込)	

交通案内

電車:

みなとみらい線(東急東横線直通)を利用の場合:
 みなとみらい駅下車、3番出口からマークイズみなとみらい<グランドガレリア>経由、徒歩3分。または<マークイズ連絡口>(10:00~)徒歩5分。
 JR、横浜市営地下鉄を利用の場合:
 桜木町駅下車(動く歩道)を利用、徒歩10分。

車:

桜木町駅前から日本丸方面へ入る。または桜木町駅前から紅葉坂交差点を右折してMM21地区へ入り、美術館へ。横浜からは高島町MM21地区入口を通して美術館へ。いずれも3~5分(首都高速「みなとみらい出入口」も利用できます)。

令和3年度 横浜美術館年報

令和5年1月20日発行

編集・発行：横浜美術館

〒220-0012 神奈川県横浜市区みなとみらい4-3-1

PLOT 48 横浜美術館仮事務所

TEL:045-221-0300(代) FAX:045-221-0317

<https://yokohama.art.museum>

デザイン：峯石景子

© Yokohama Museum of Art 2023

